

由宇で
いこう!!



由字でいこう!!

for adult only
マンガース・スタジオ

目

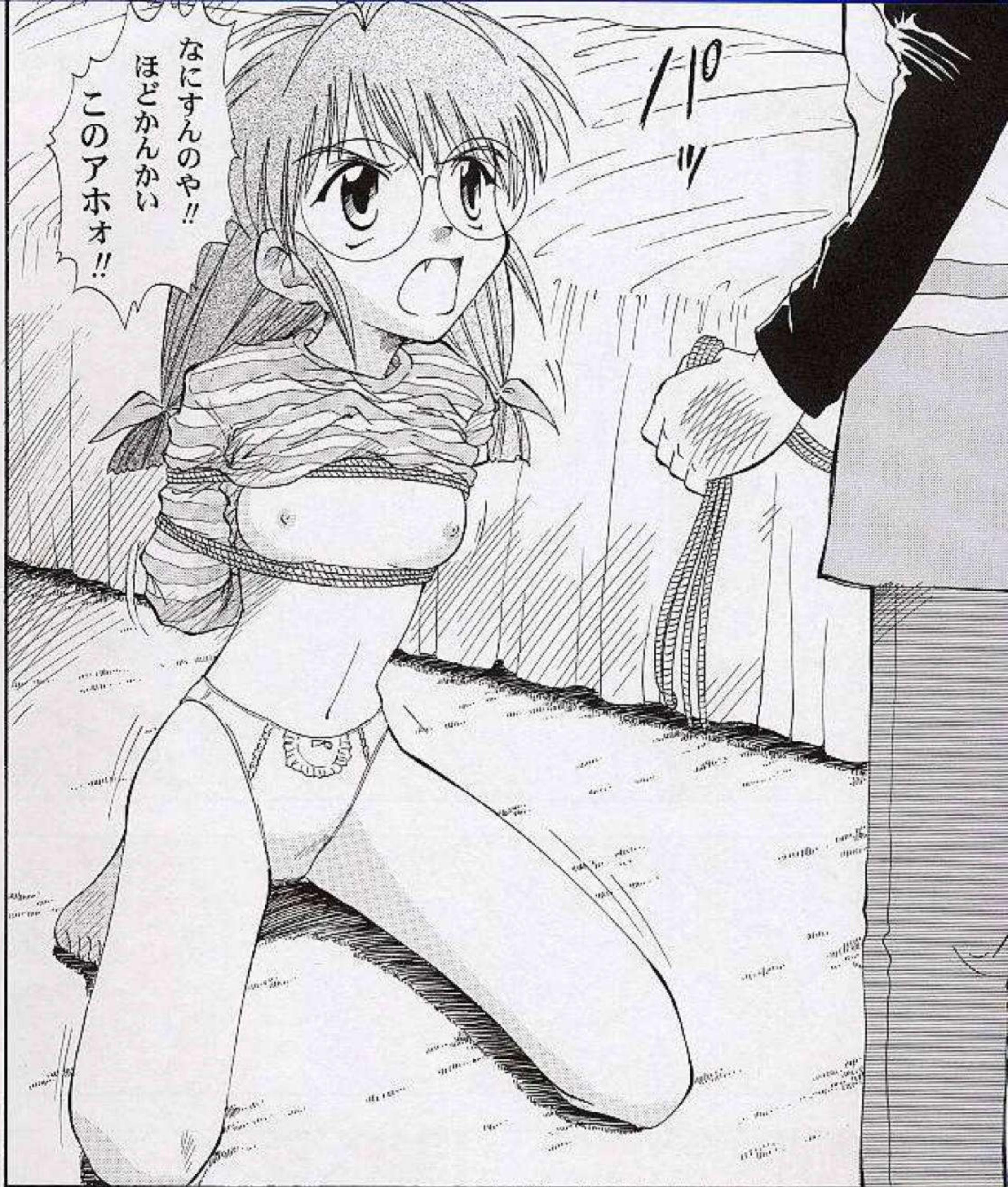
次

☆表紙＆裏表紙／深紫'72

□ 05~16P	「由宇そのマンガ道!!」	深紫'72
□ 17~32P	「明日晴れたら」	KiKa=ざる
□ 33~44P	「野望の壁」	六条 真
□ 45~48P	「由宇、遊、白書」	Fuu
□ 49~60P	「イブの記憶」	藏 王
□ 61~62P	イラスト	来道 明
・ 64~65 ・ 63	コメント お気に入り	みんな 佐々子



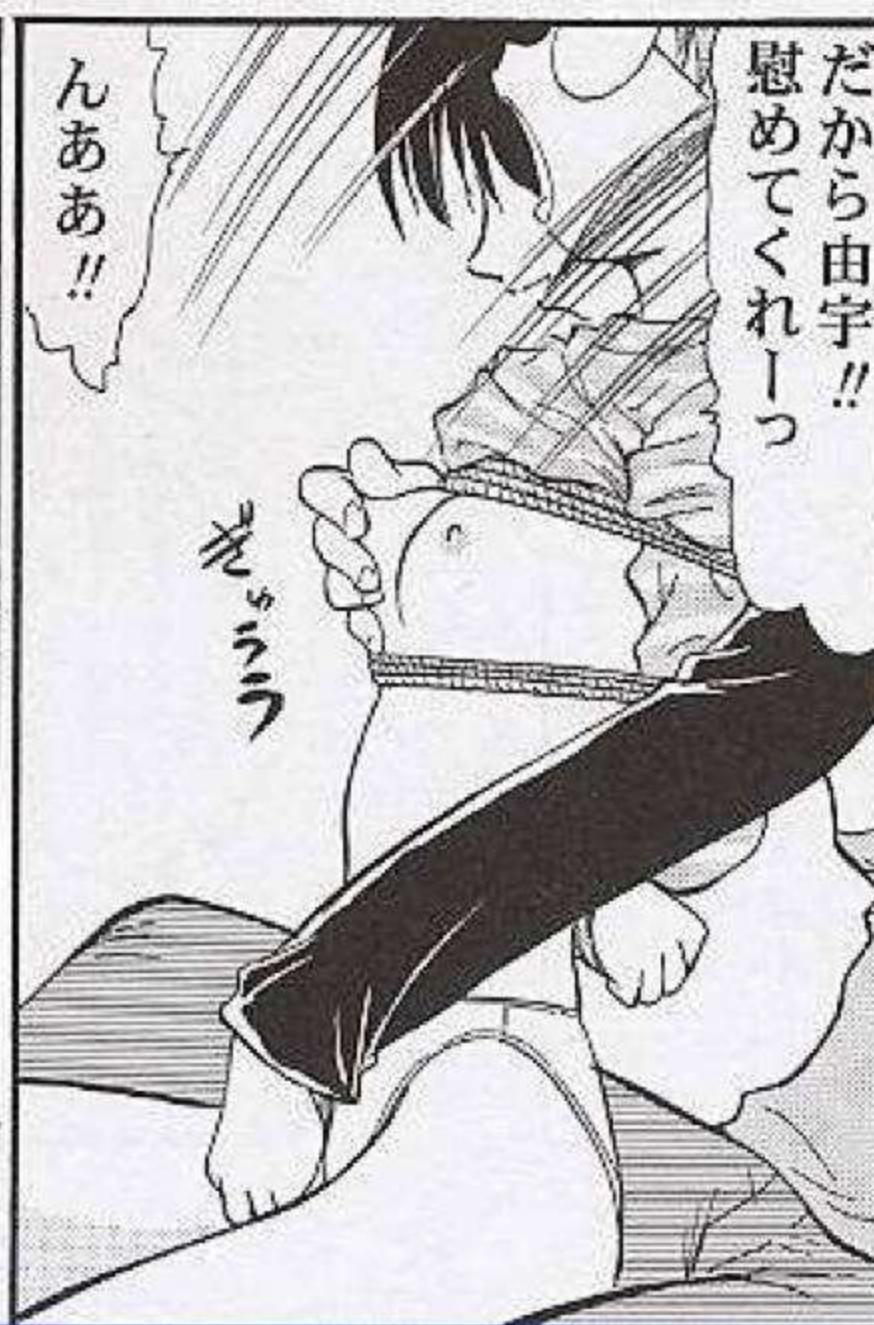




由宇、そのマニガ道!!

深紫'72

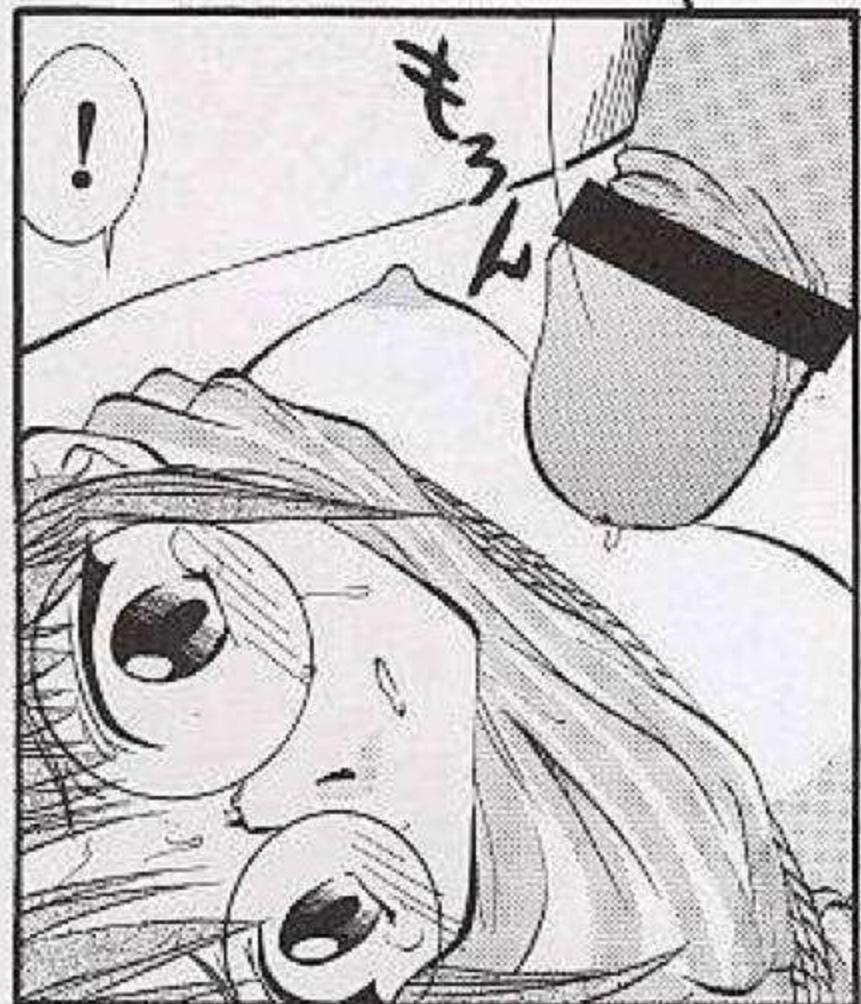
由宇一





み……見せんで
ええ!! やめ……

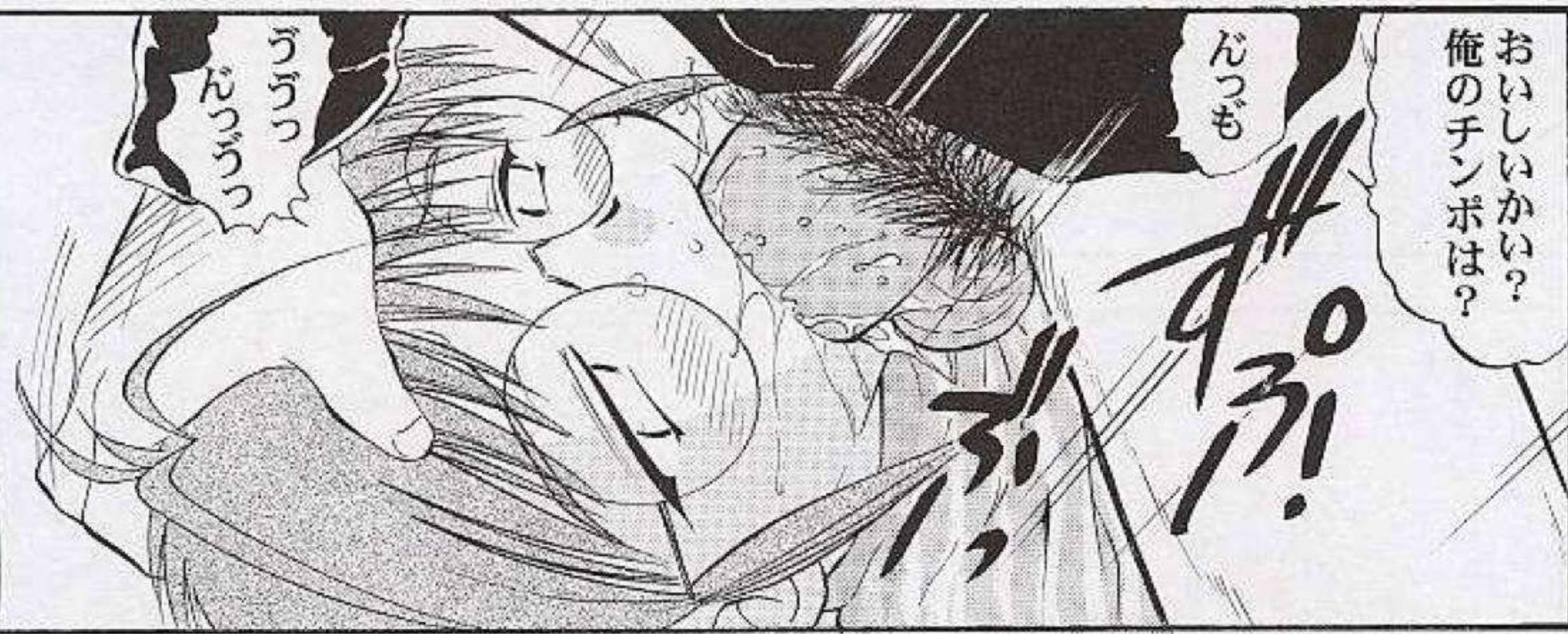


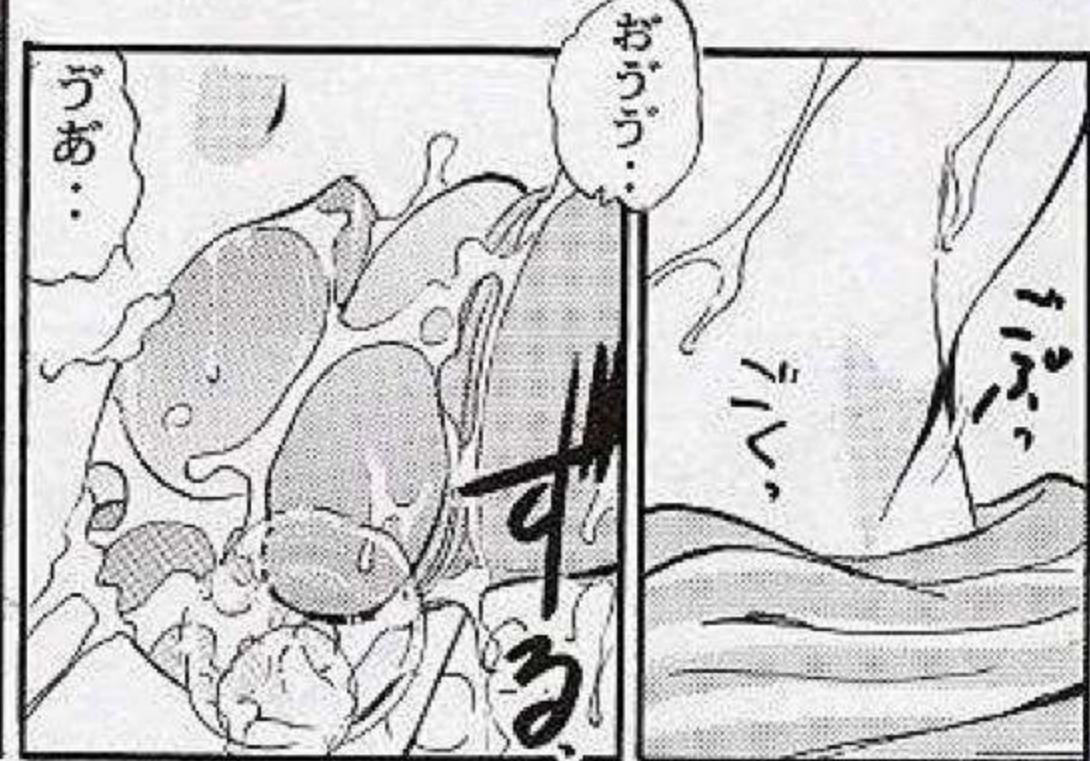


オレのもたのむよ
由宇

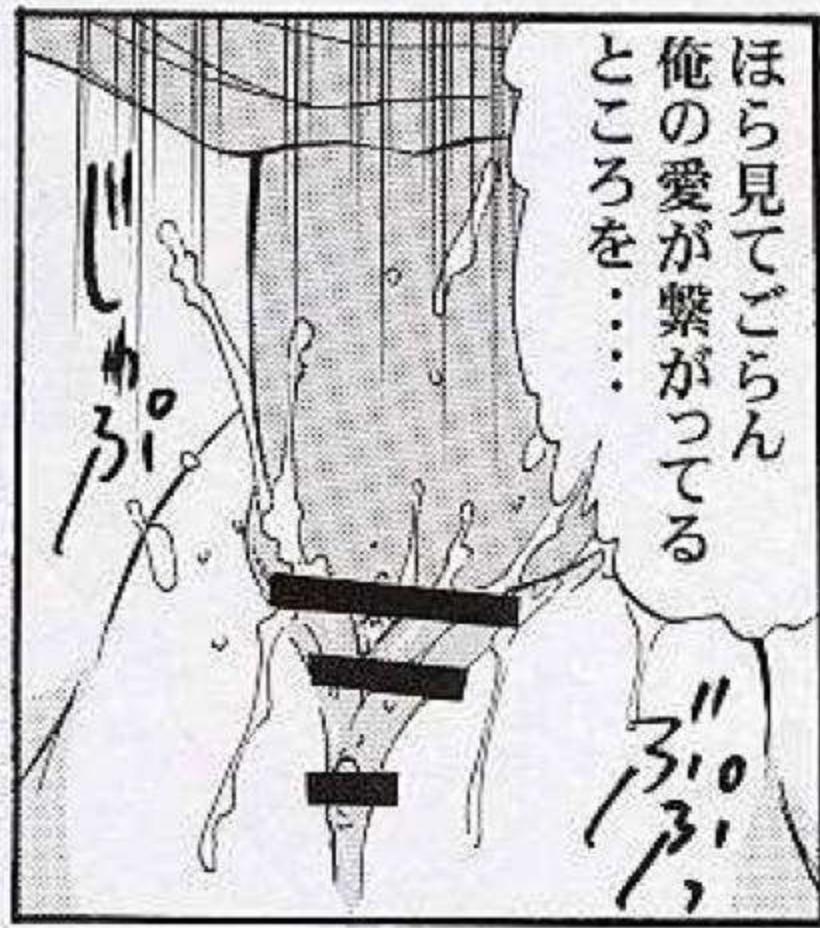


おいしいかい?
俺のチンポは?

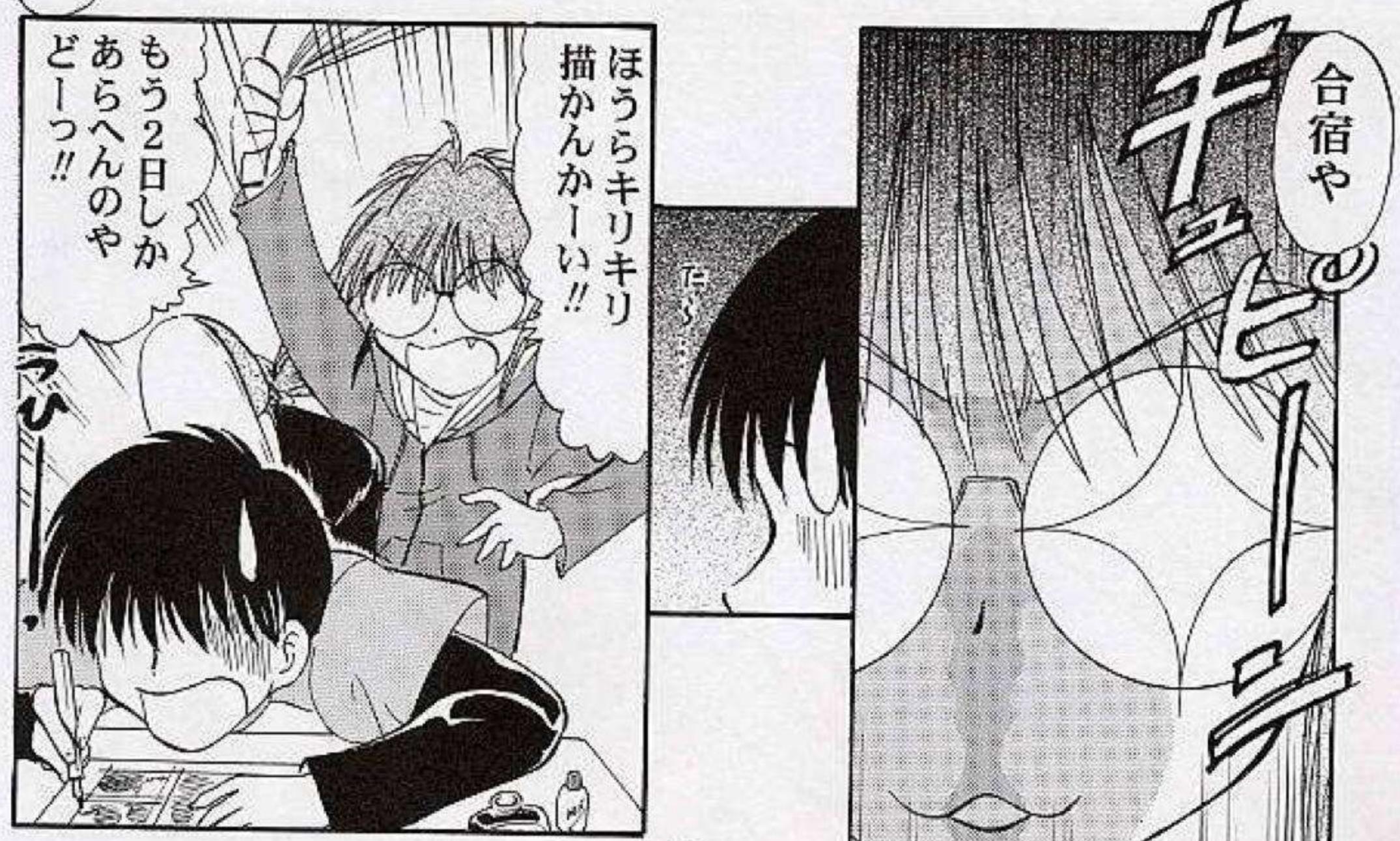
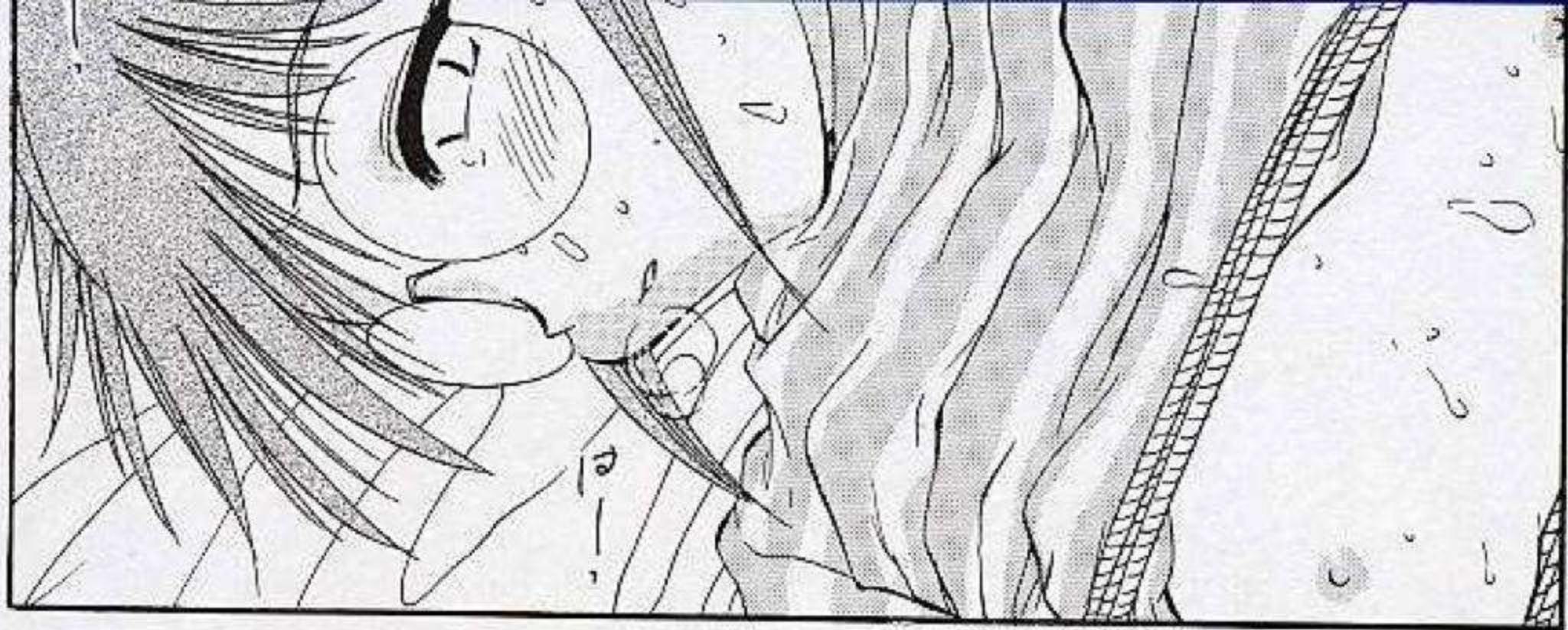








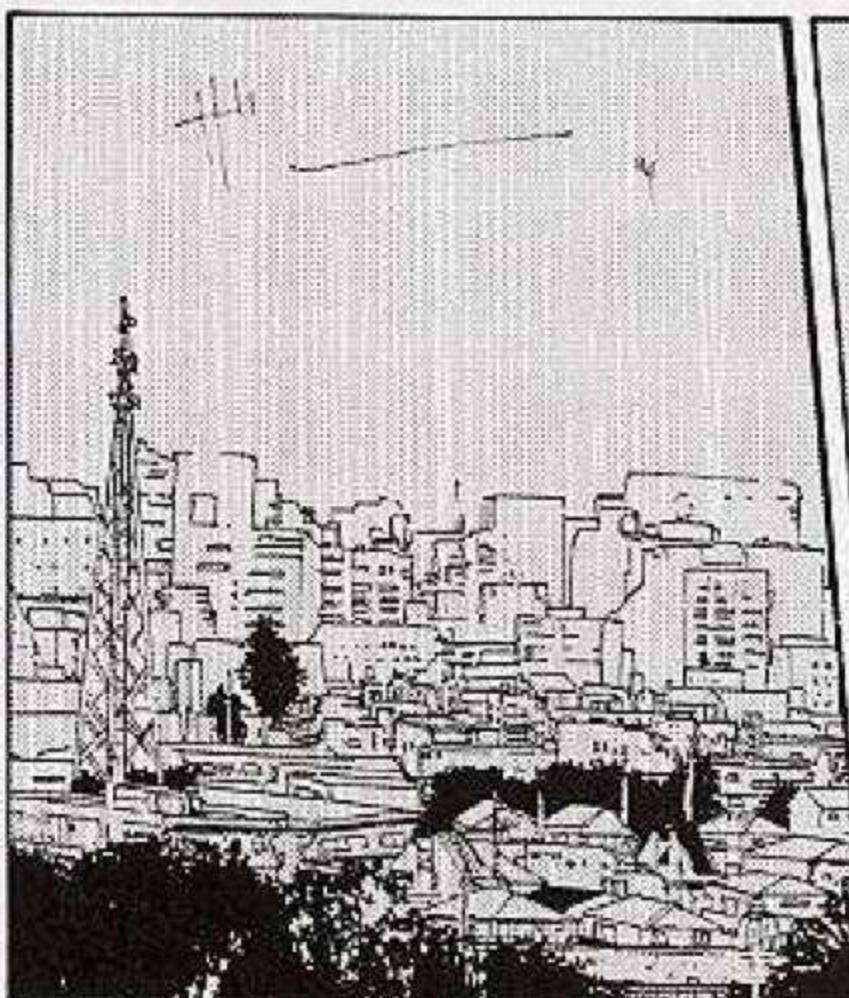
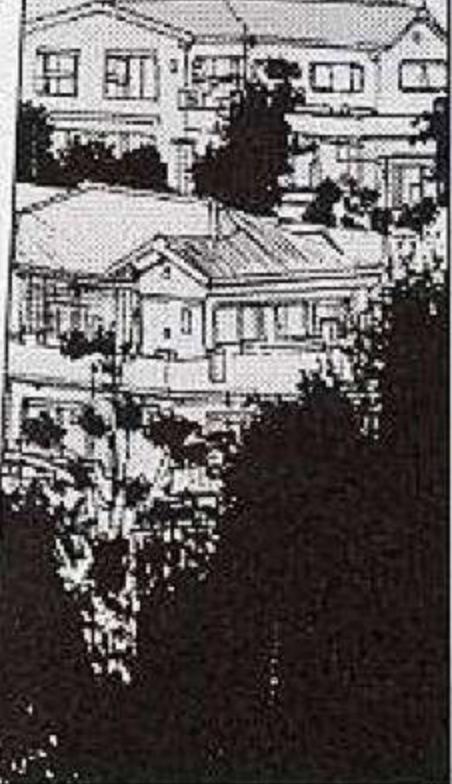
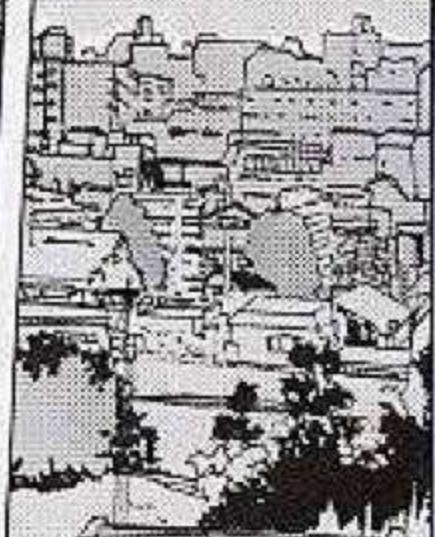
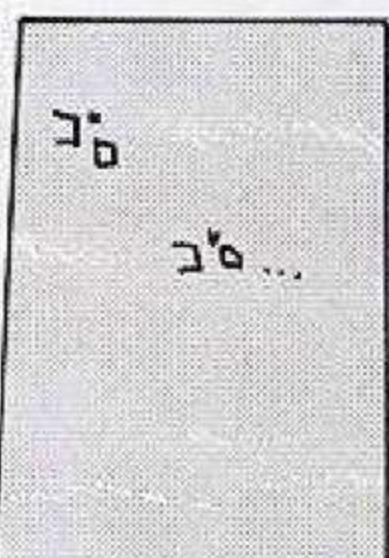
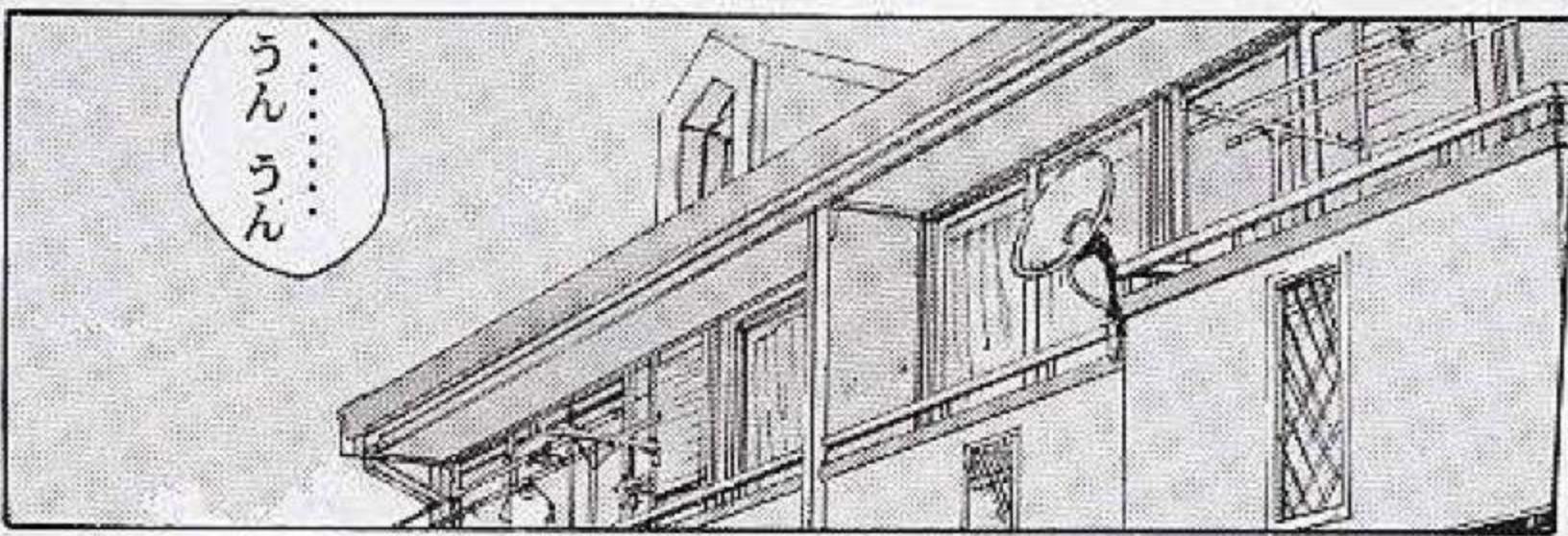




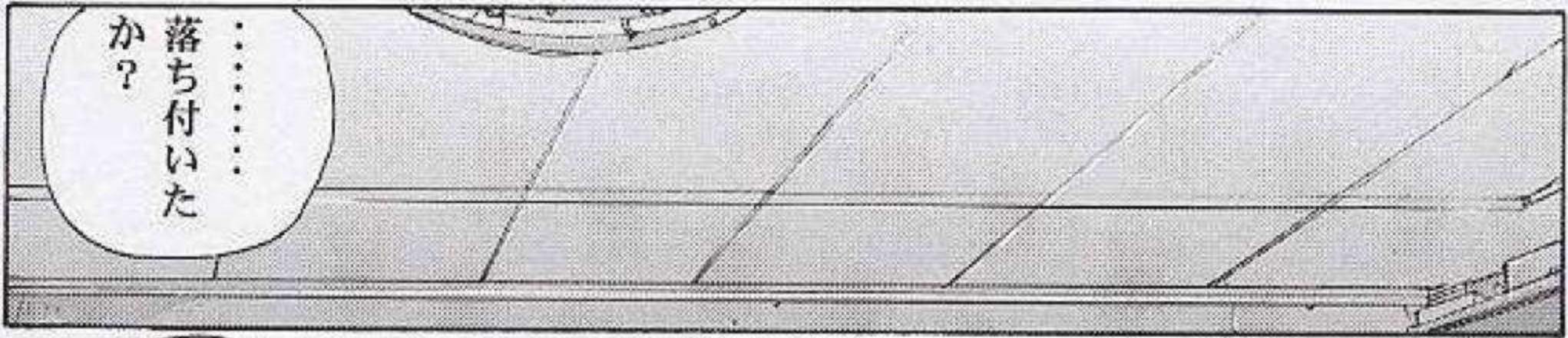
明日晴れたら

kika=ざる

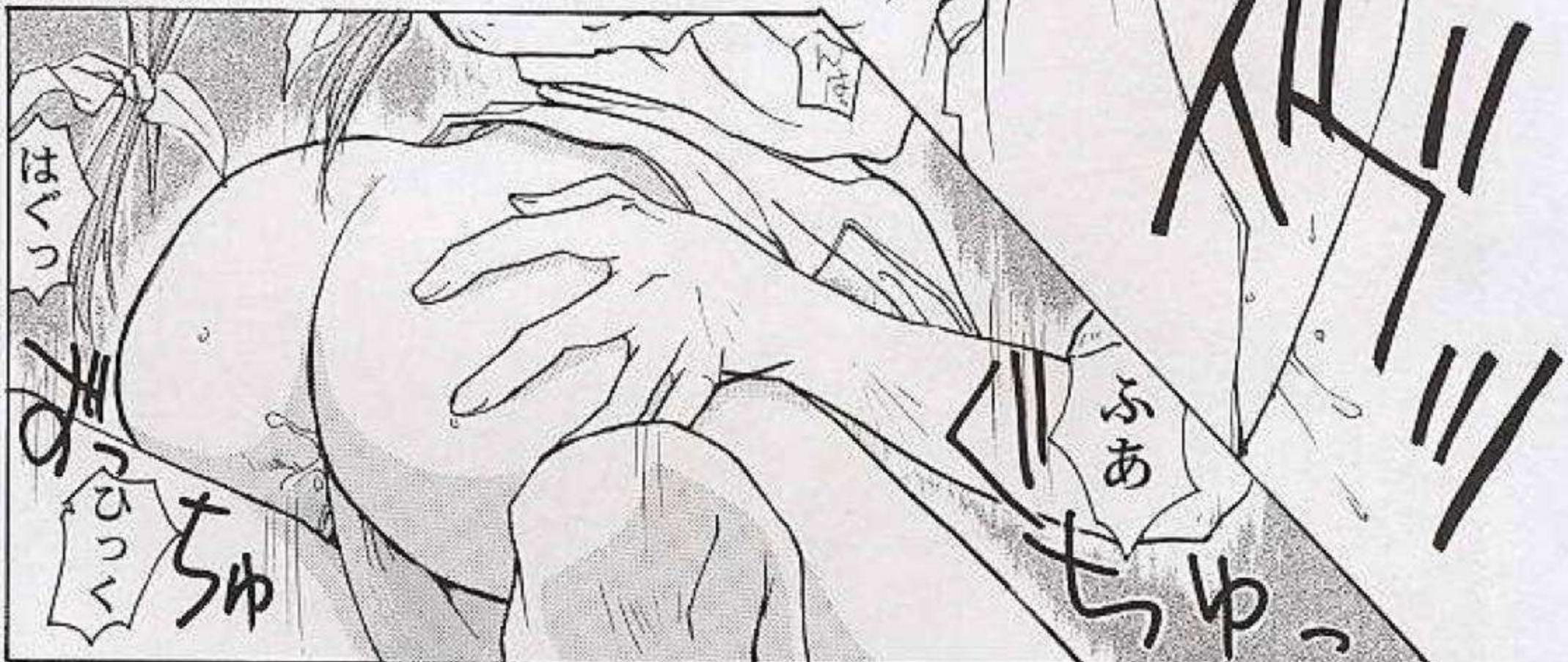
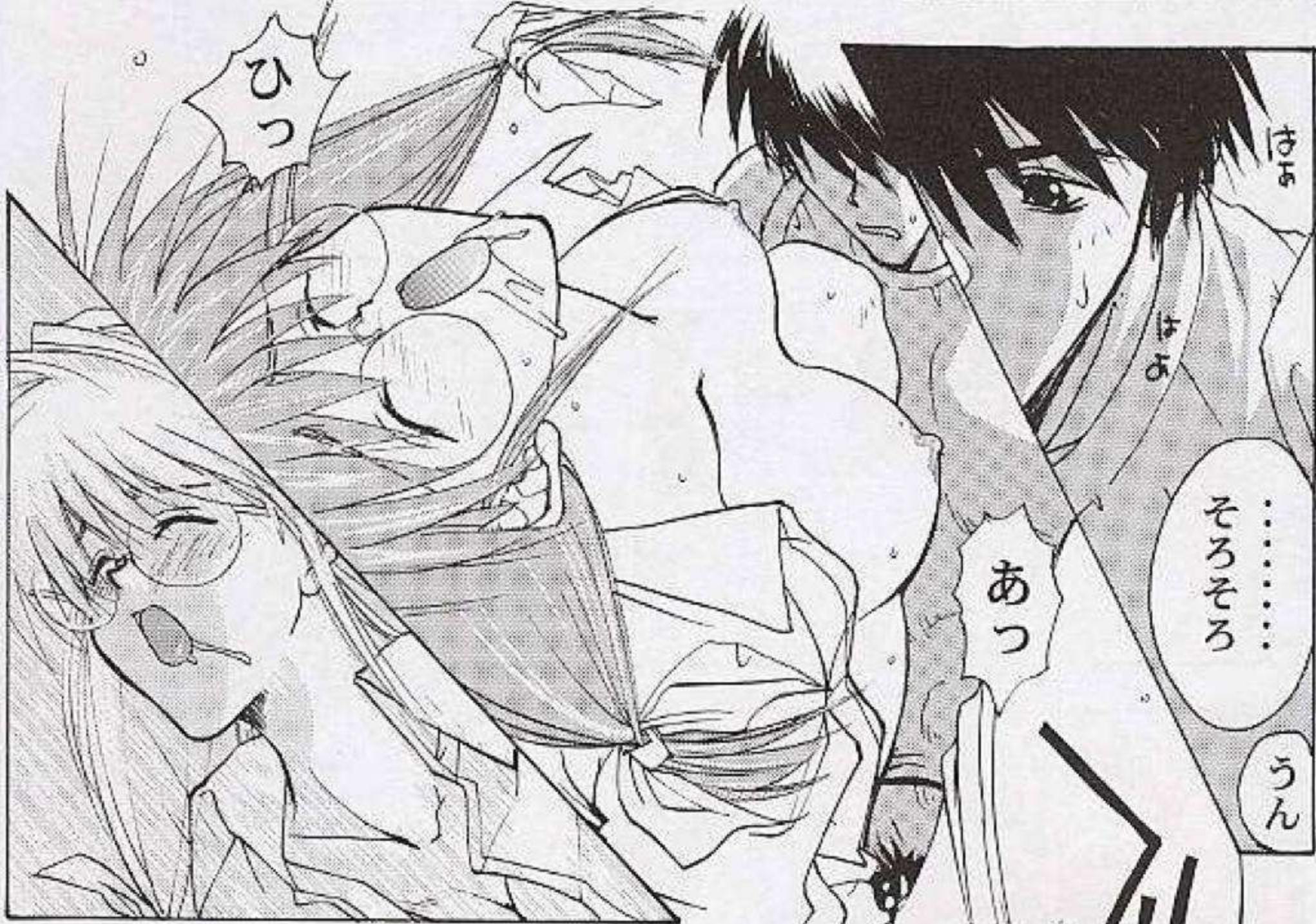


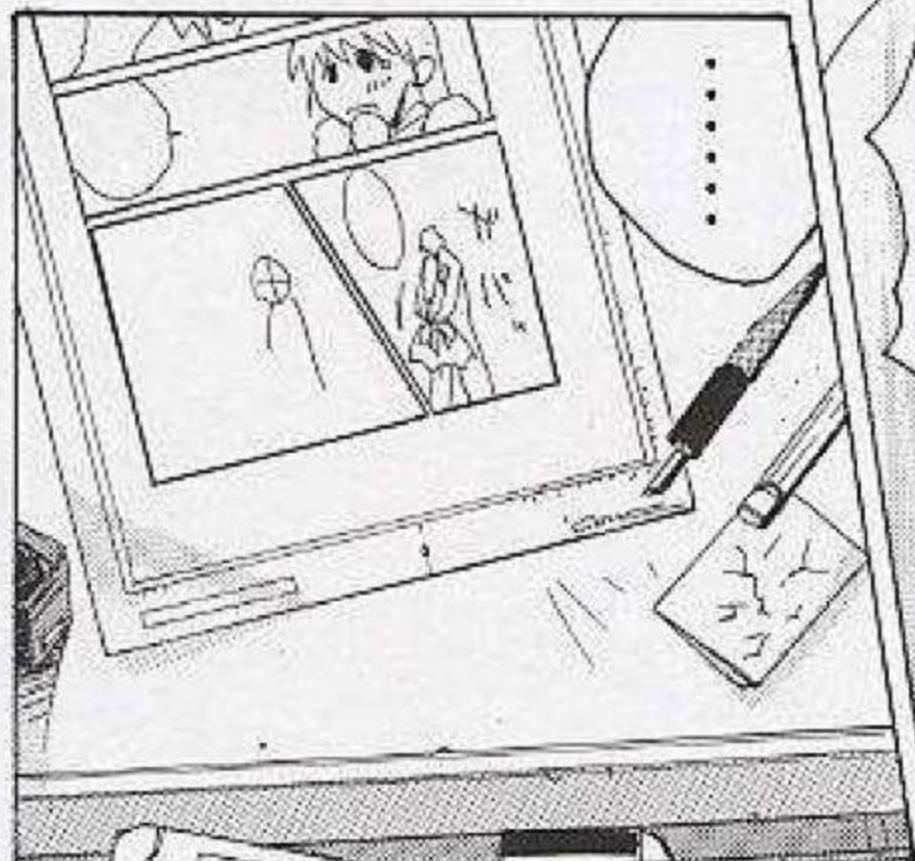




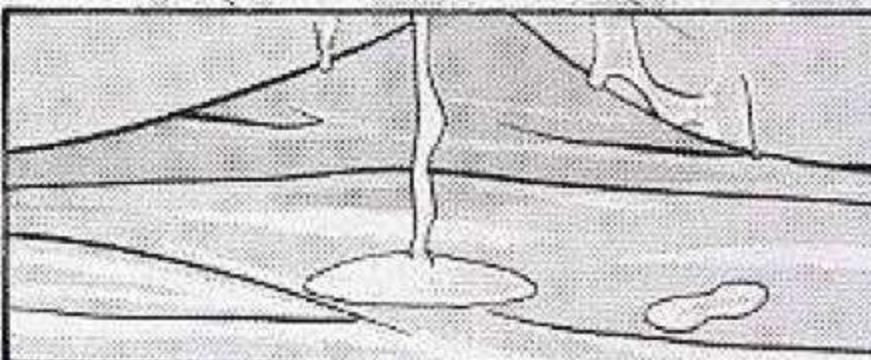


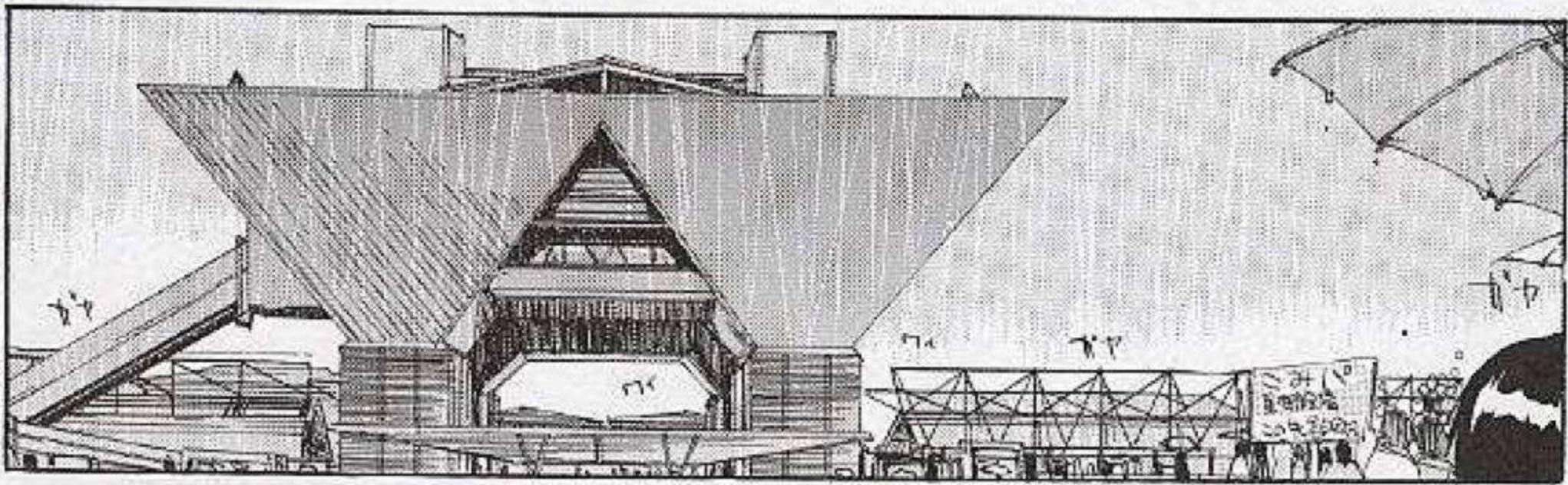


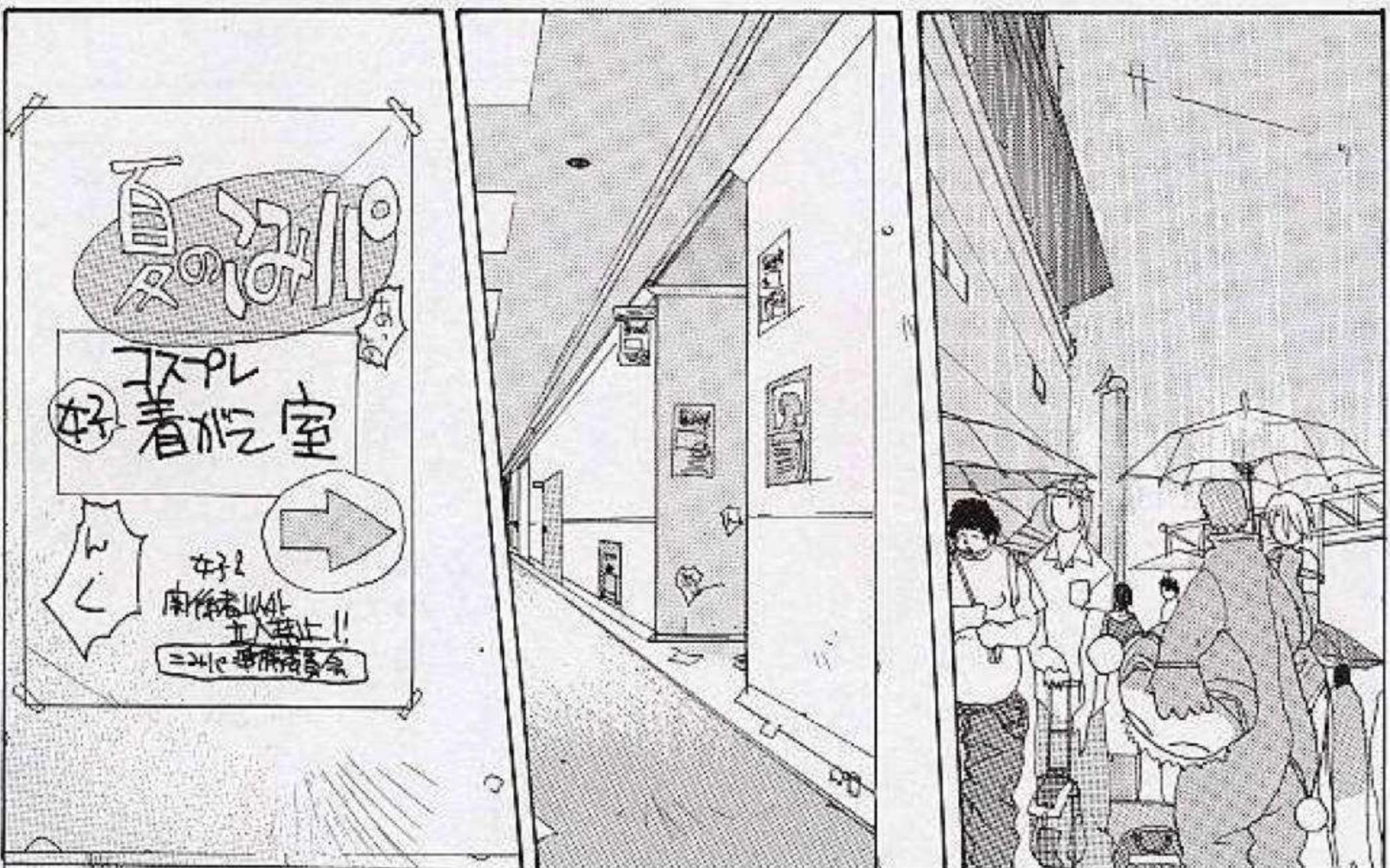




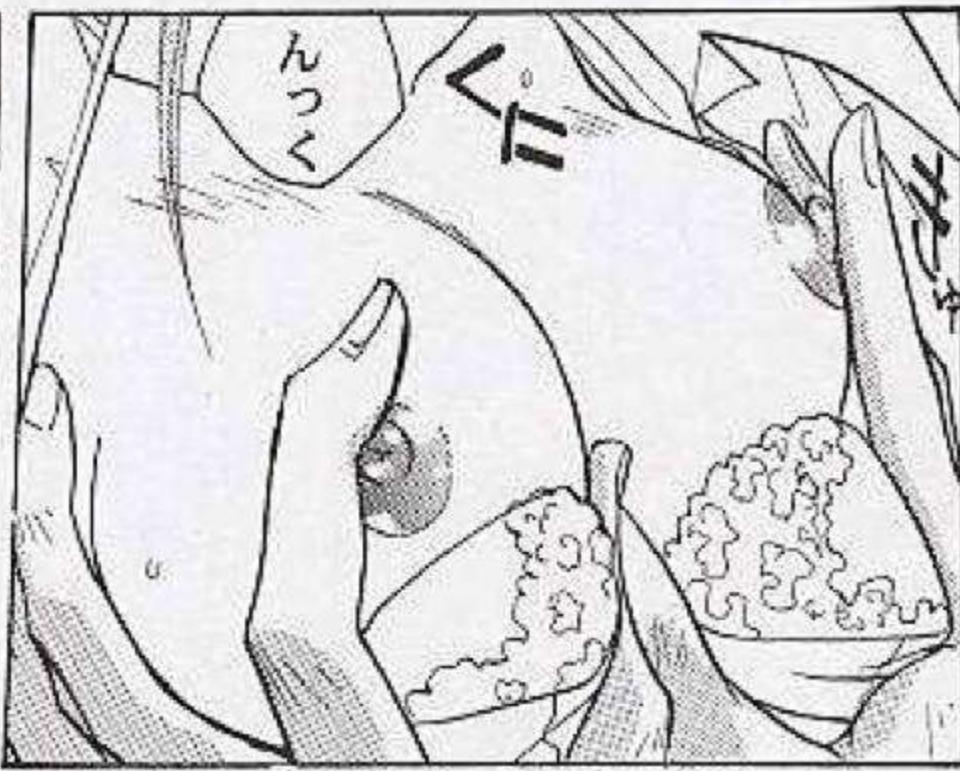
きやううつ











お礼
だつてば

出来る限りで
かなえてやるぜ？

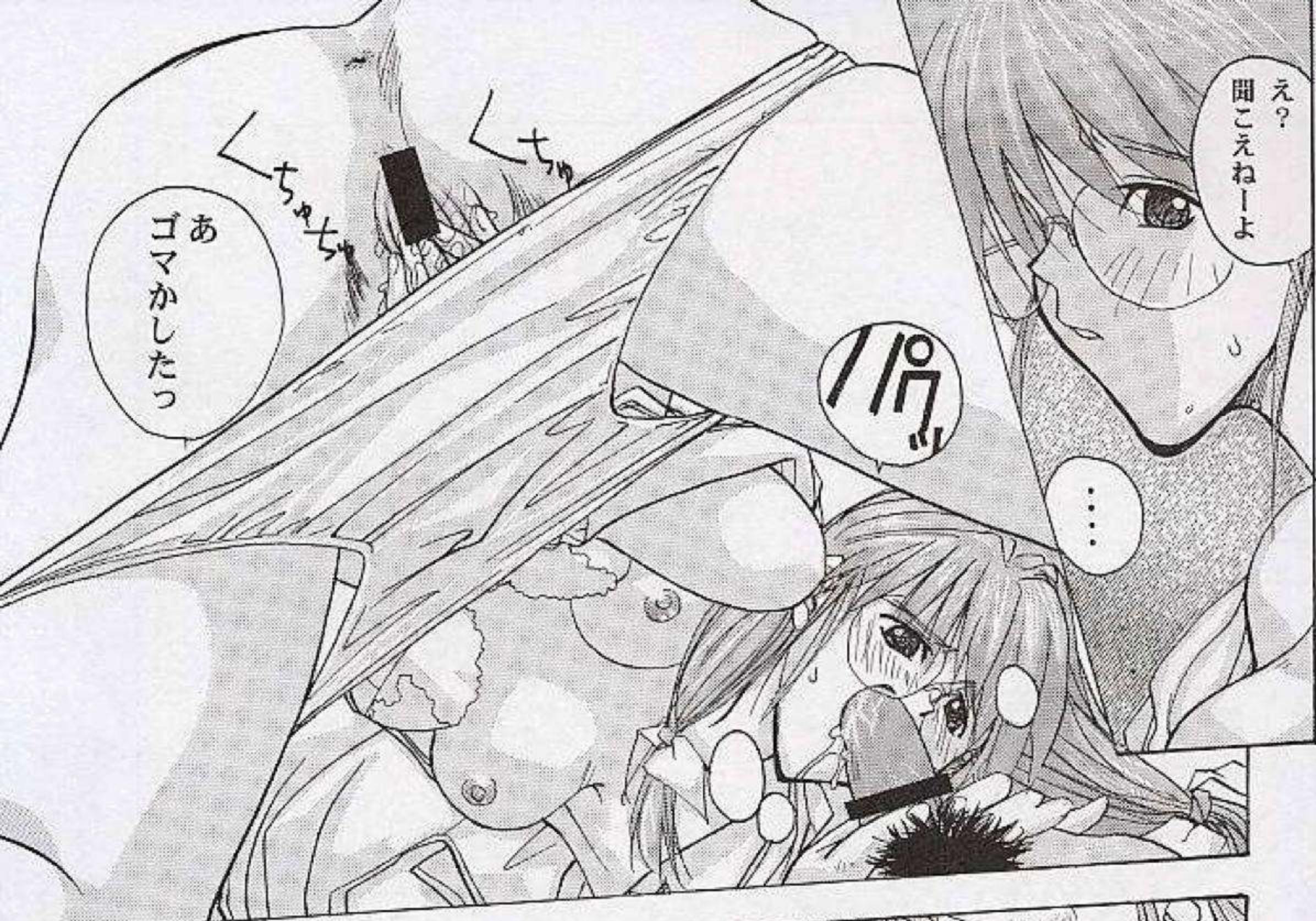
お礼

んんっ

ふつく

アンタと
……が見たい

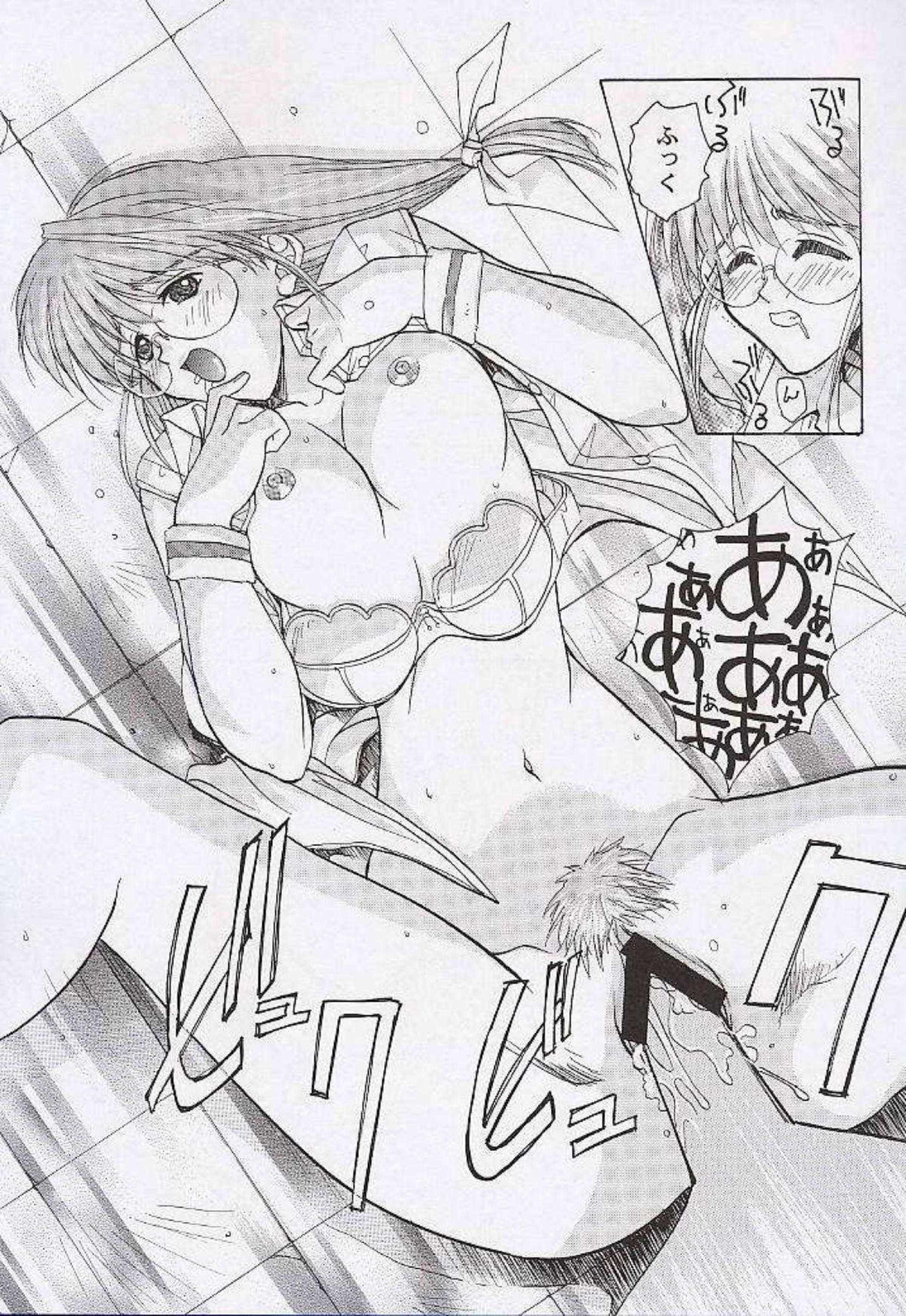
はあ

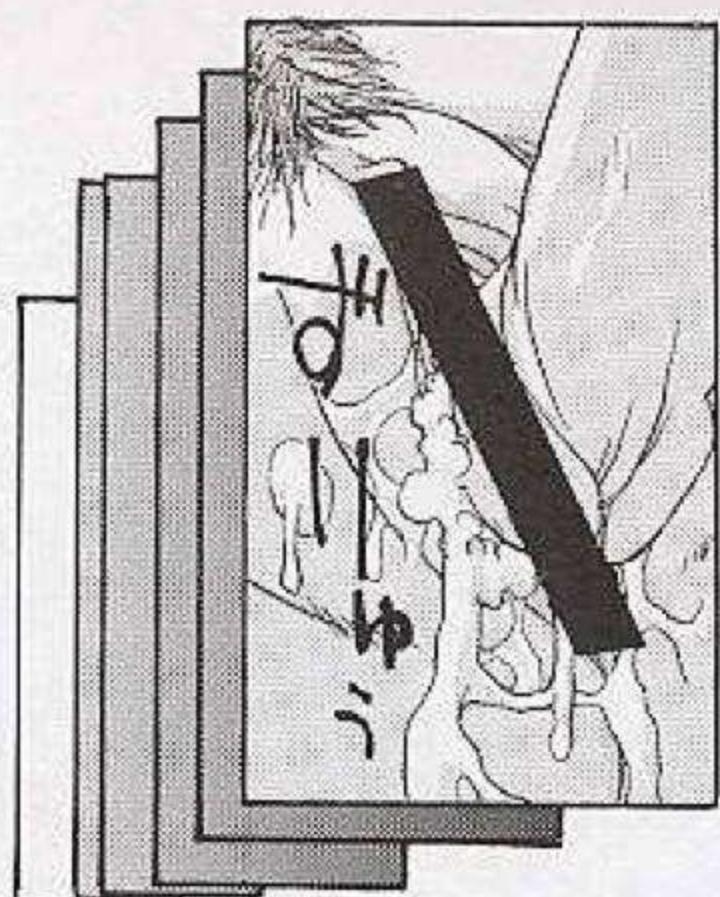


あはああ

しお
ねーな
ホラッ









我が野望
こみパ征服
：：それを
装束で表現
したまで
深く
考えるなつ

ブリ
ブリ
ブリ

野望の基礎

：：要はウチにえげつない
エロ同人描かせてボロ儲け
しようつてハナシやろつ！

ふつ：：：さすが
いい勘だツ

誰がする
かいツ
お断りや

別に交渉の為に
来て貰つた訳では
ない

特に
女性の
場合はツ

人を支配
するのは
造作もない

おお本当に
あの辛味亭の
猪名川由宇だあ
♥

俺ずっと前から
ファンだつたんだよお

結構色っぽいじやん
胸無えーけどさつ

ひひツ白パンツ
丸見えつ♪

ひつ!?









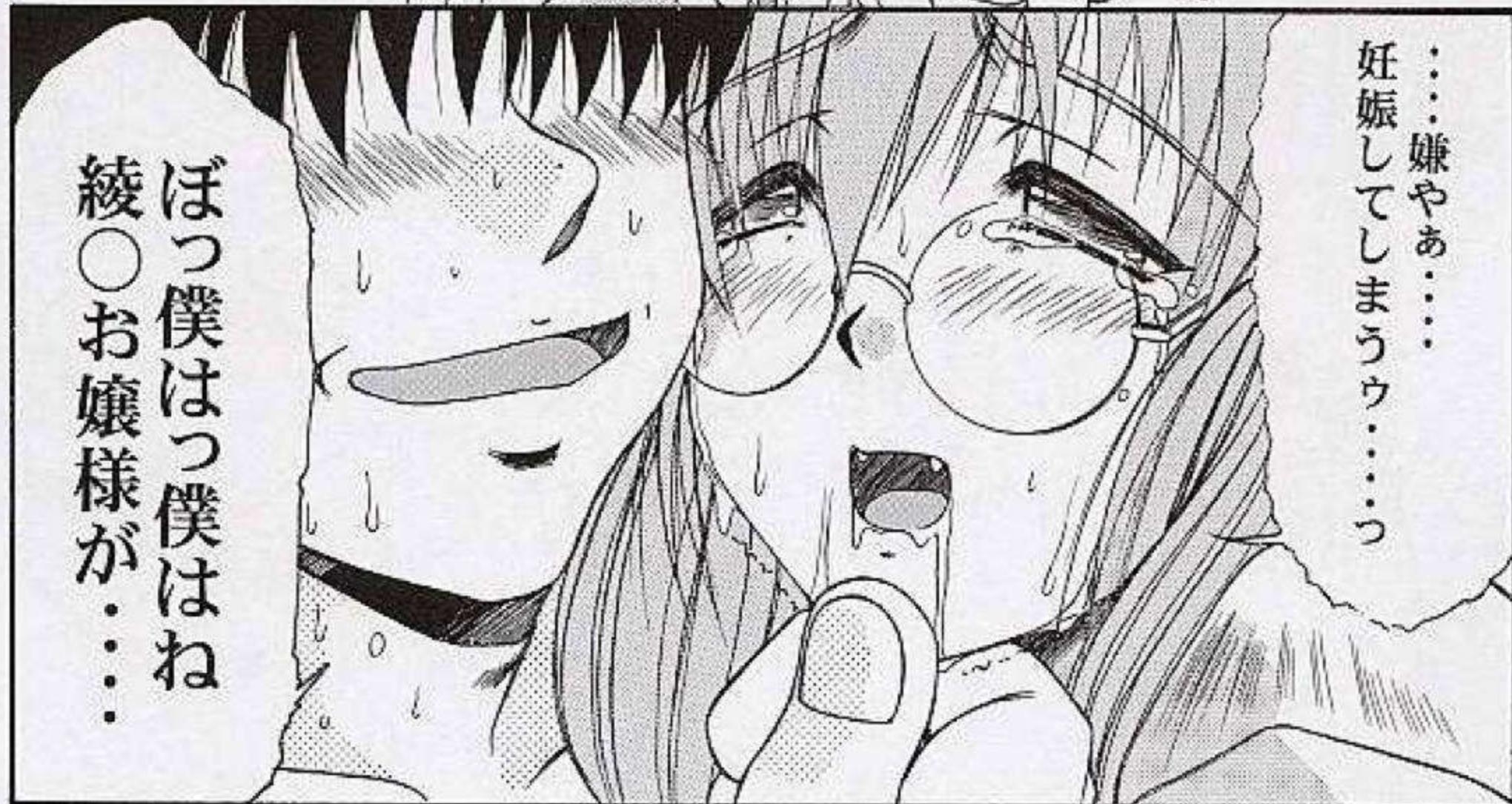
やあああ

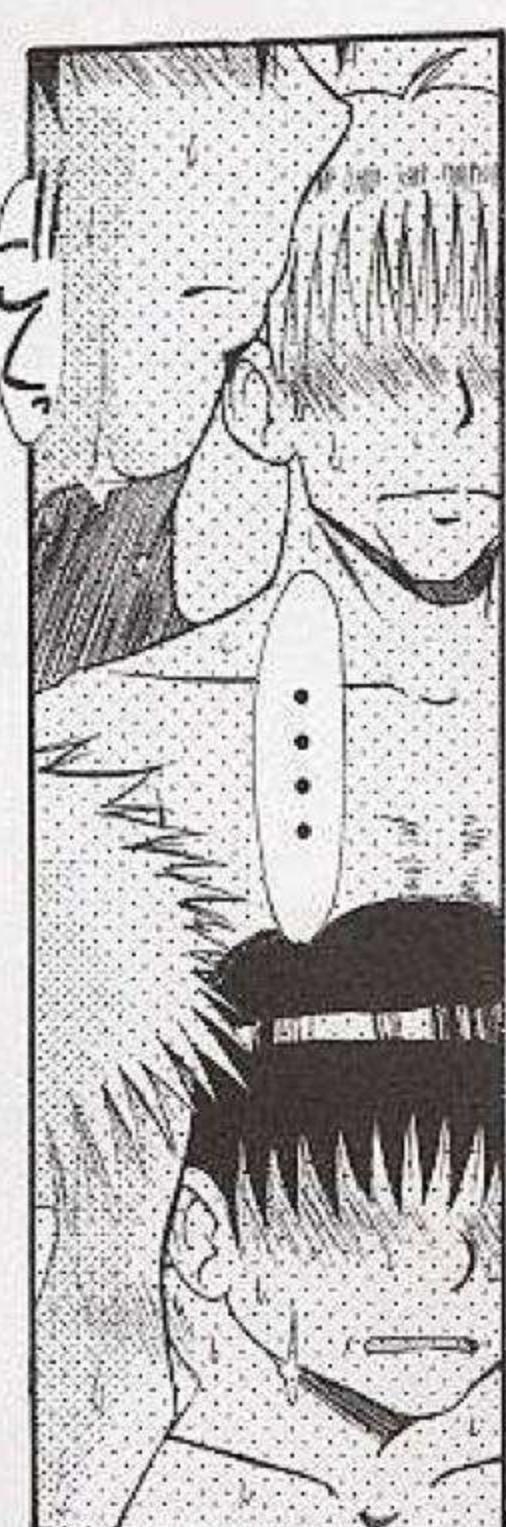
こんな風に
さあツ!!



ぼつ僕はつ僕はね
綾○お嬢様が…

…嫌やあ…
妊娠してしまうウ…







もう辛抱
たまらんつ



順番なんか
待つて
られるかッ





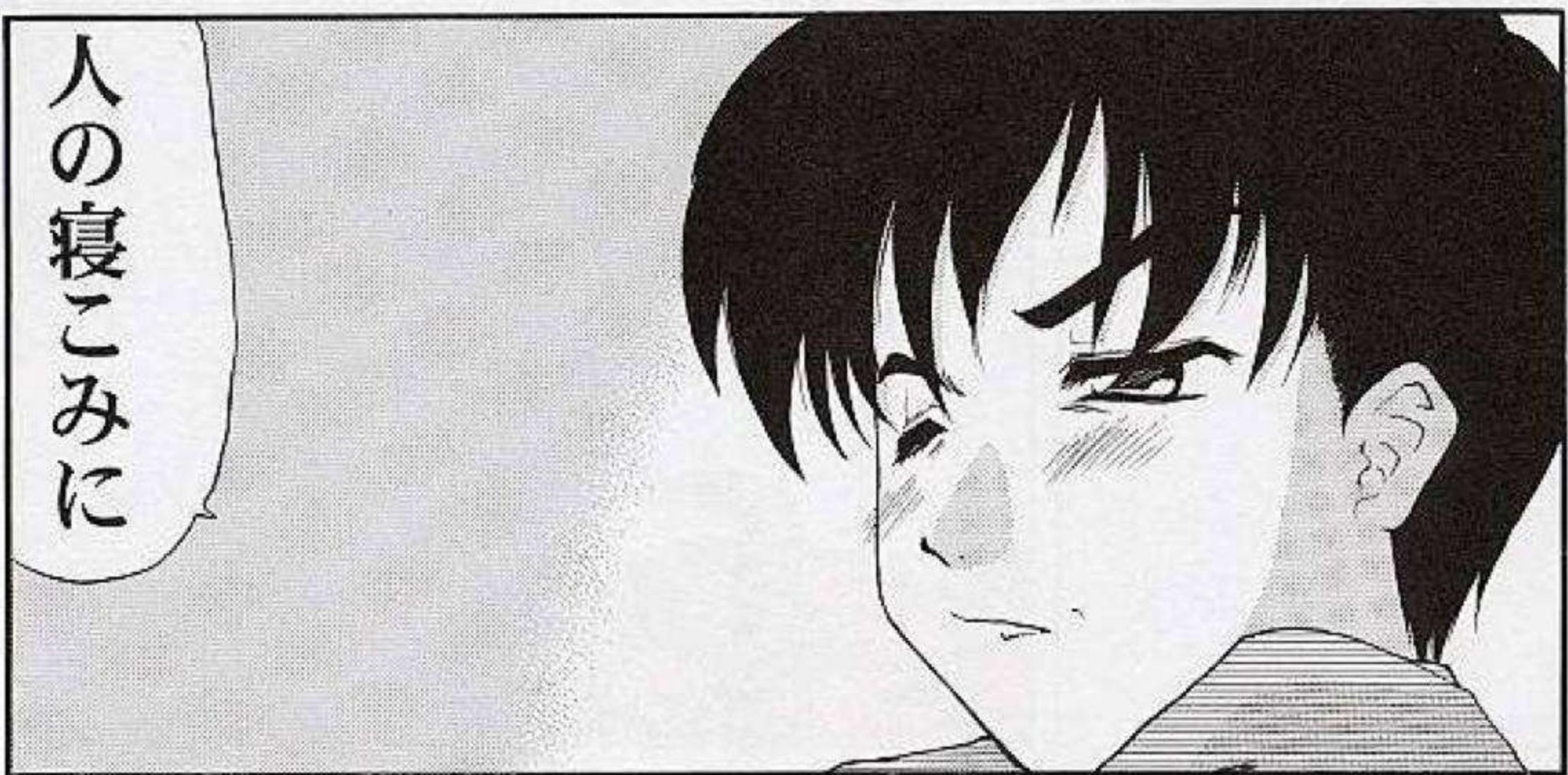


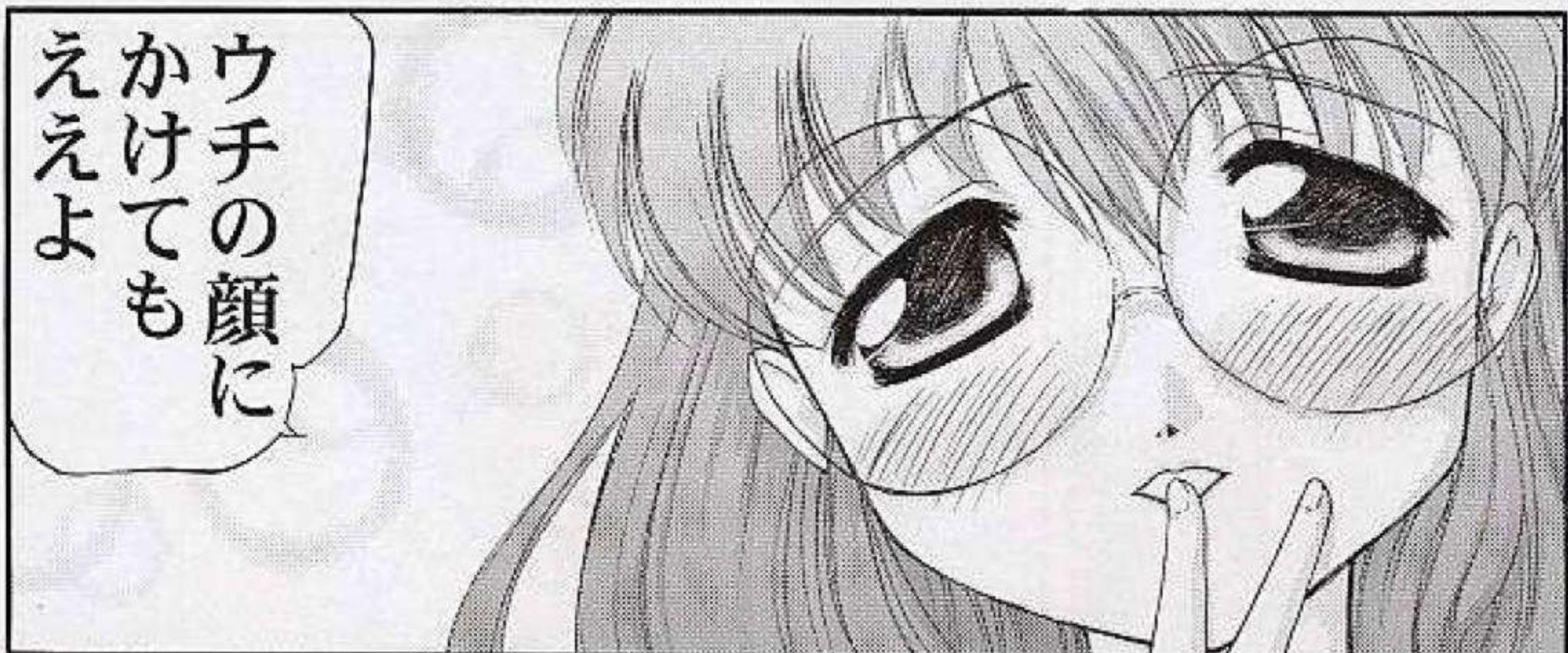
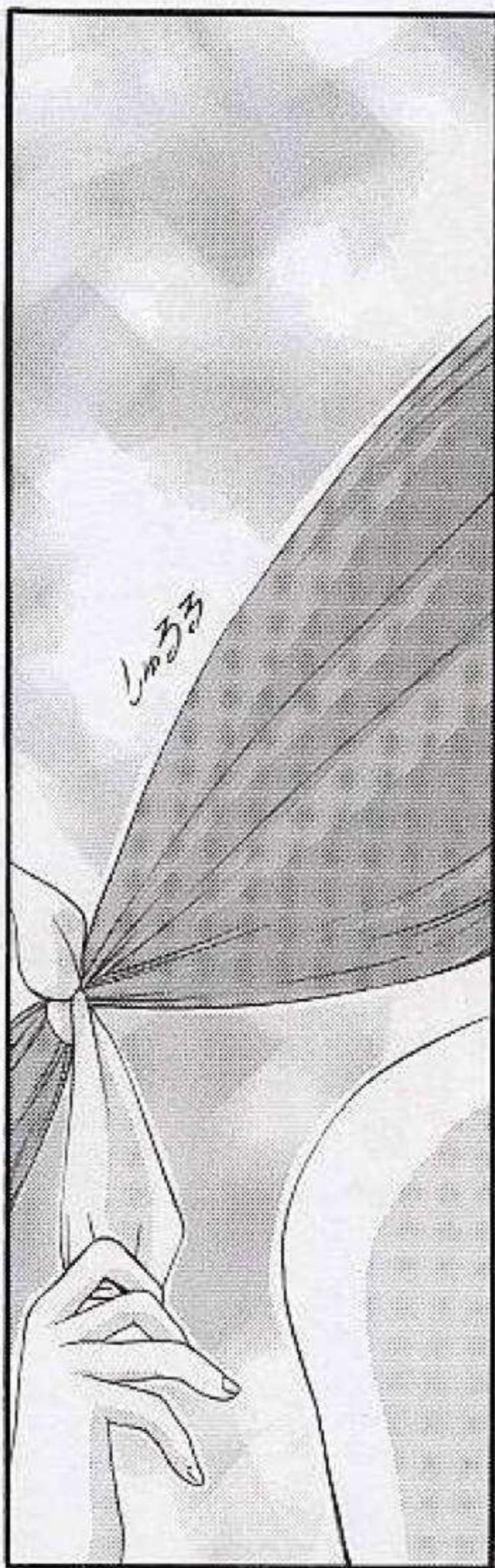
最高のアシだろう
まい同志和樹つ



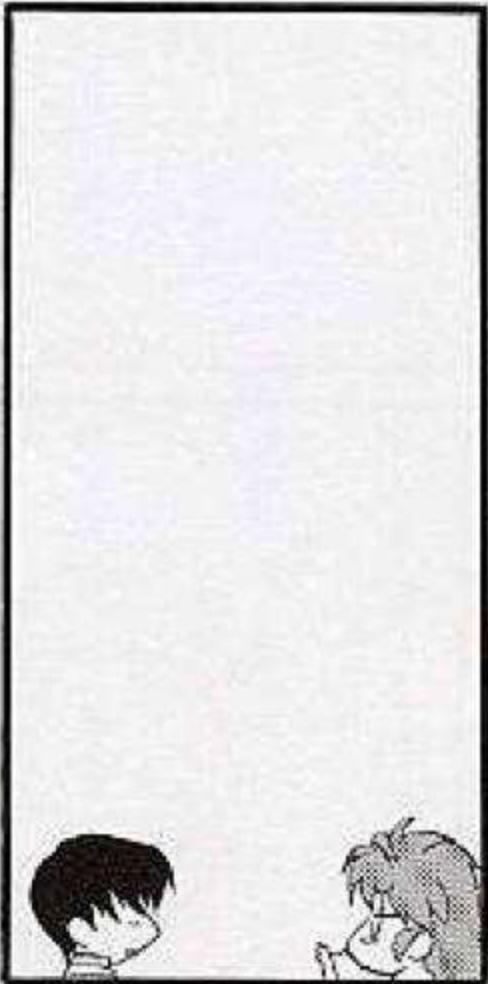
我が野望の
為につ!!

この調子で
精進すべしつ
イ……くつ
あああツ





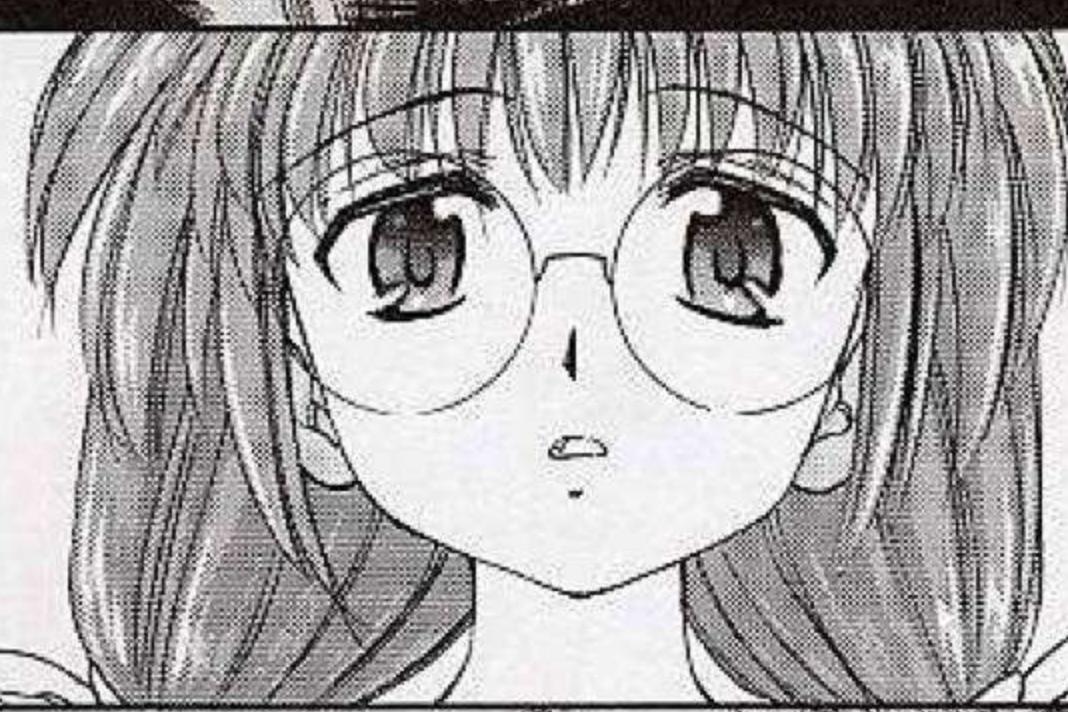




猪名川由宇

PRESENTS

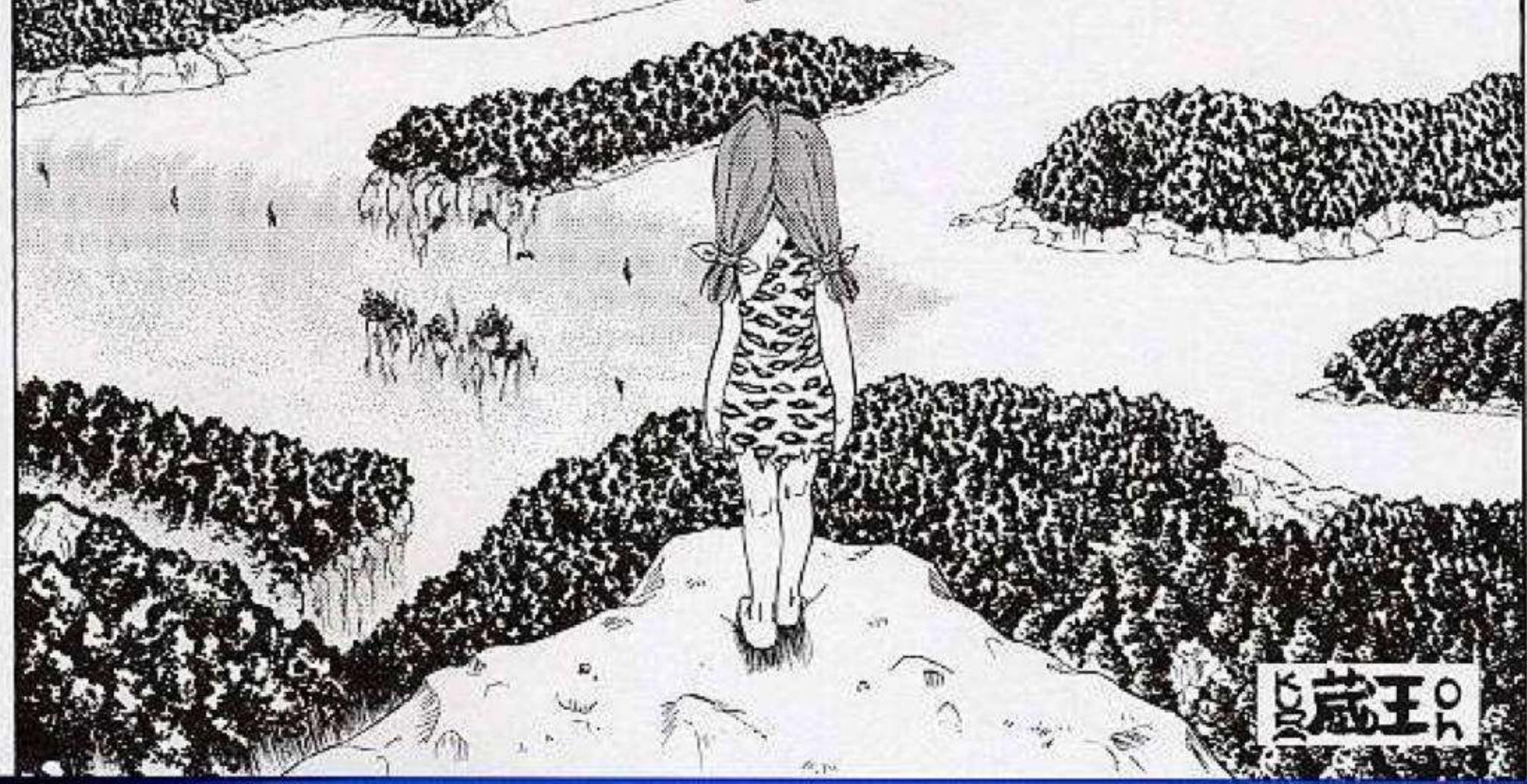
女は
わたし



気がついたら

うた
—イブの記憶—

太古にいたー
そこ



七魔王。

もう思い出せない……

父の顔も

母の顔も

永い間
歩きつづけた

たつた一人…







それからは…



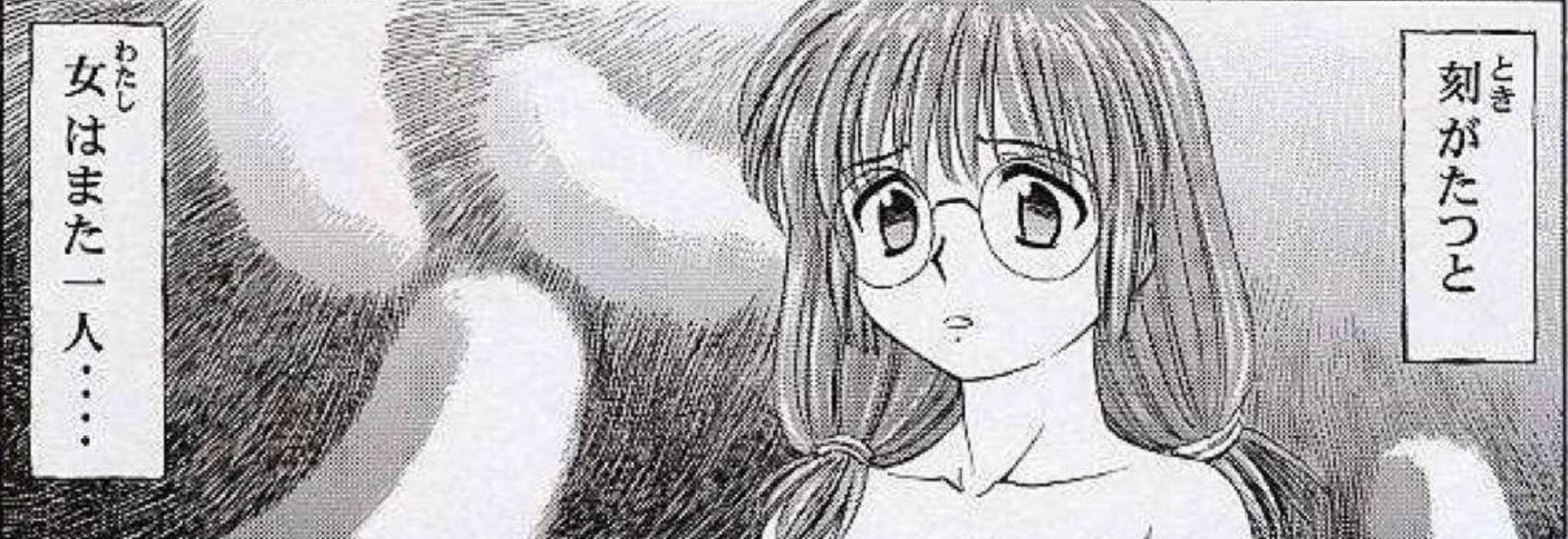
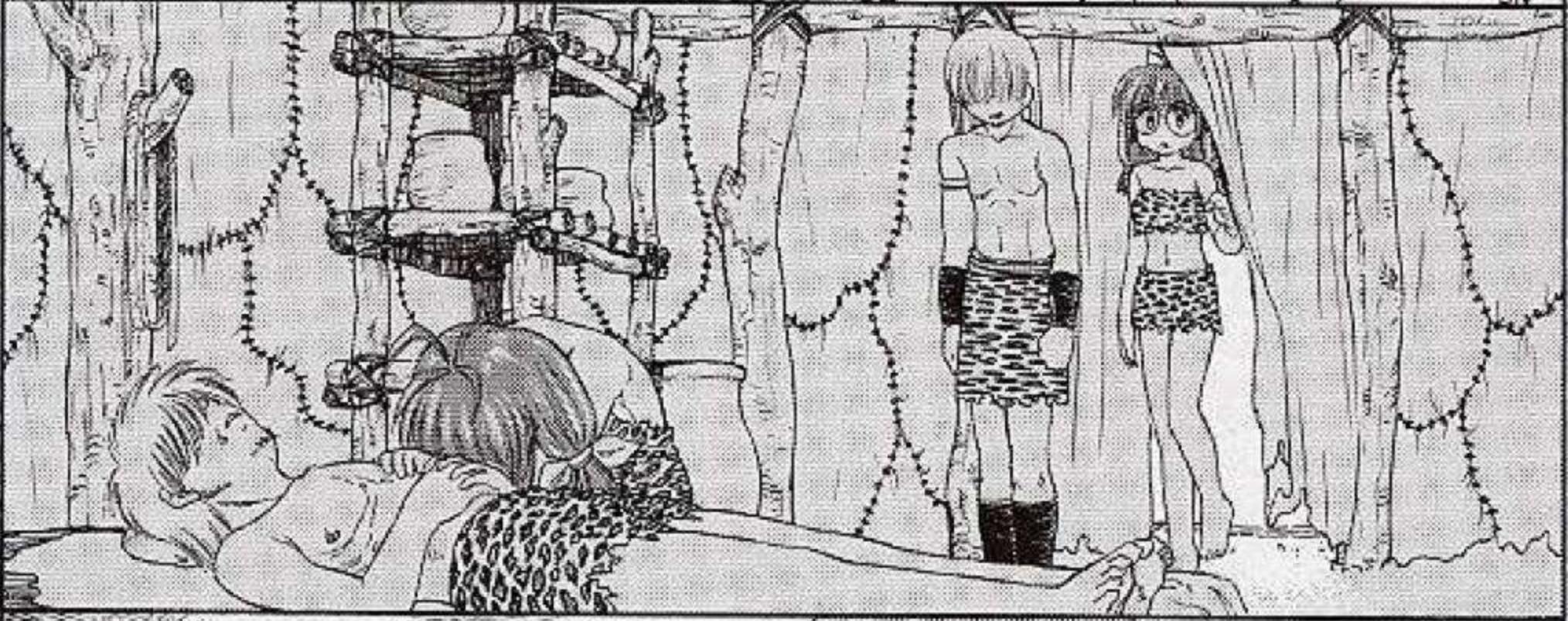
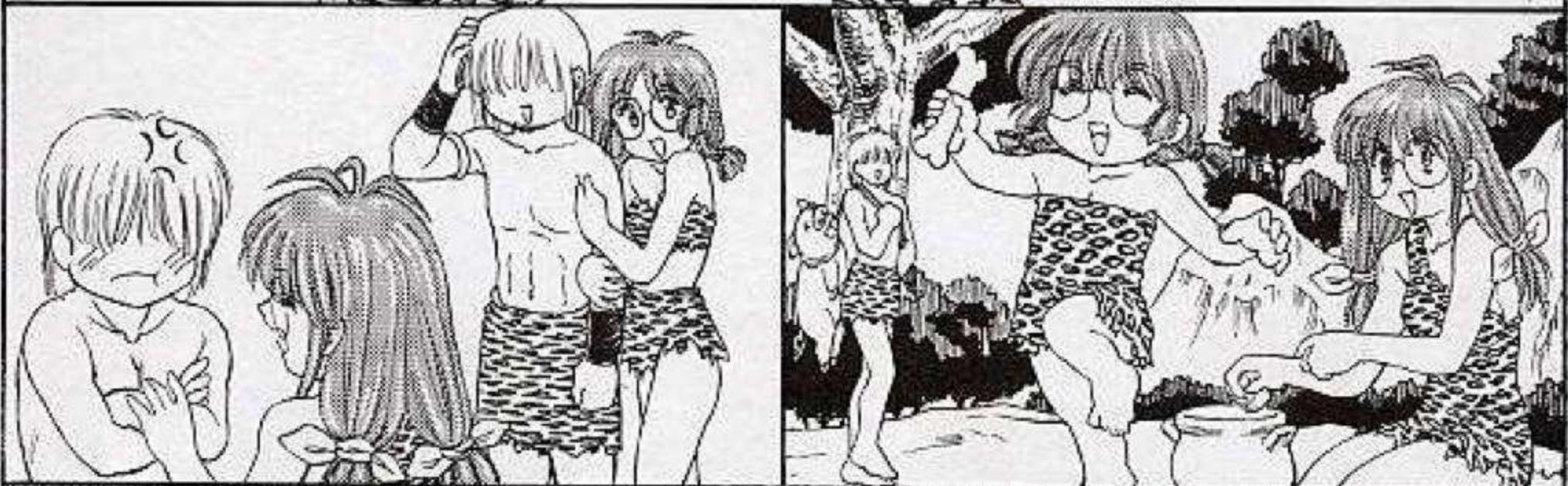
いろいろなものも
作ってくれた



そう思つてた…

もう一人じゃないんだ

でも…



わたし
女はまた一人…

とき
刻がたつと

再び出会えても

あなた
男は小さな小さな記憶を
わたし
女の中に残し

いつてしまう……



再会

別離

再会

別離

再会

別離

いつも……

いつも……

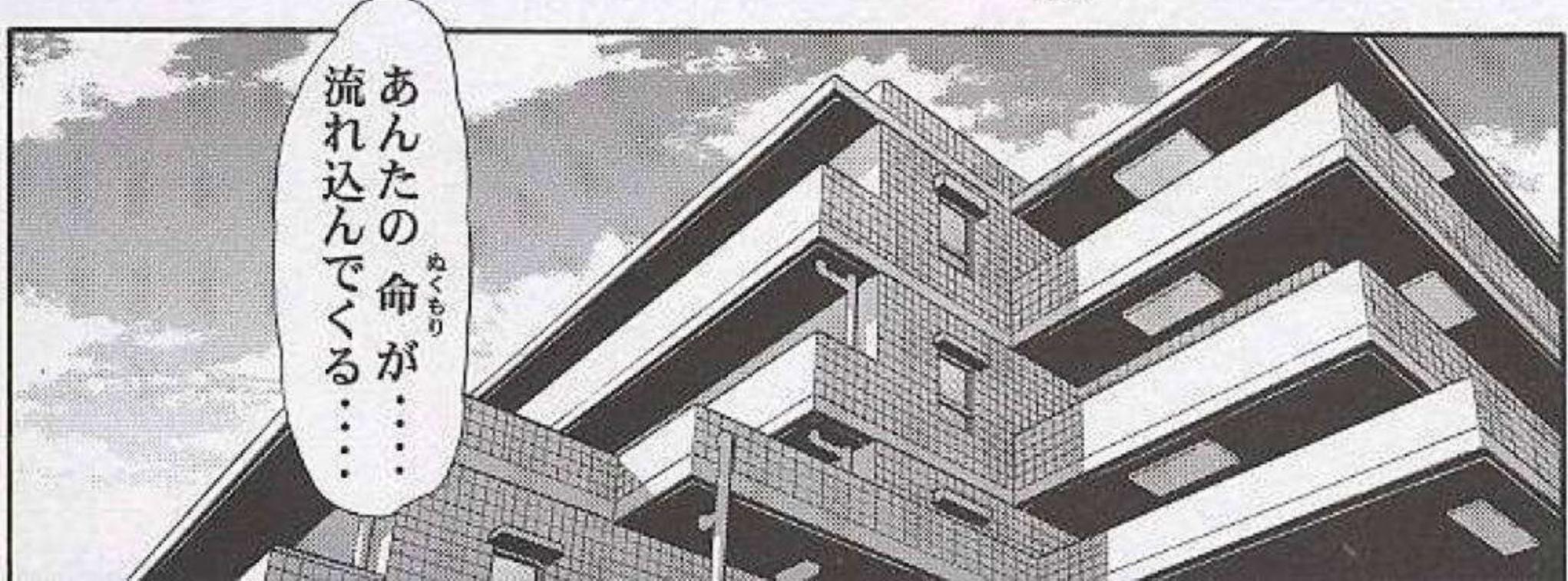
私はあなたの生きた証を受け

命を紡ぐ……
とき

あなたの作ってくれた
この世界で

そして……







カズキ……

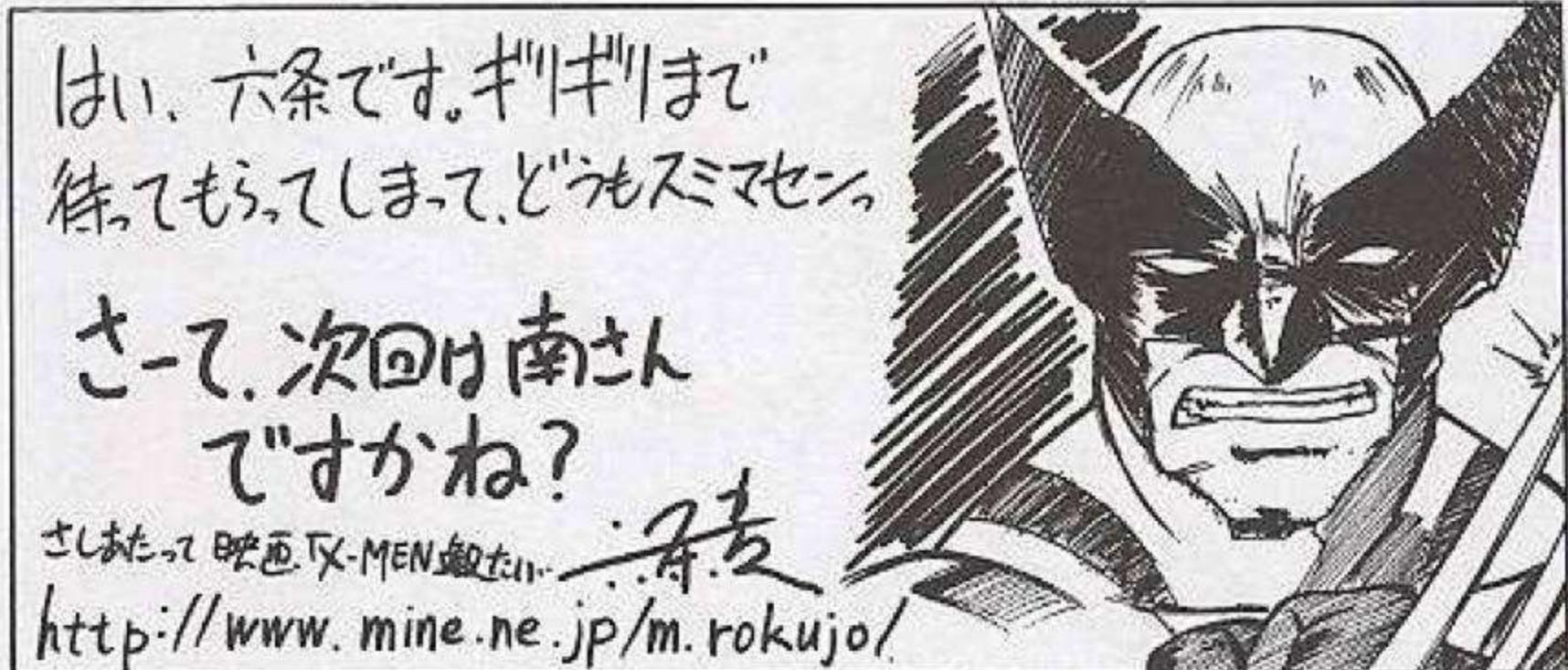
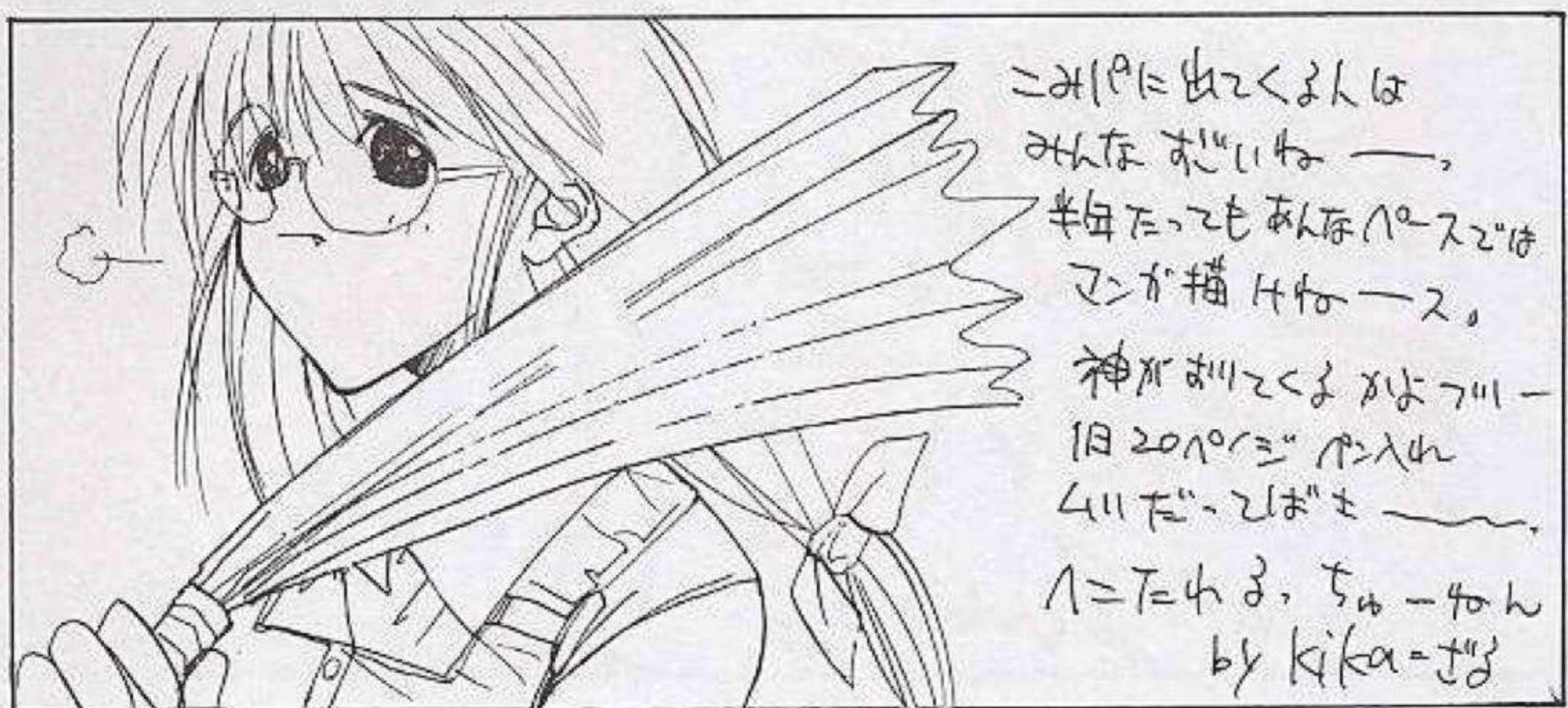
女が紡ぎたいと思う
命の相手は……

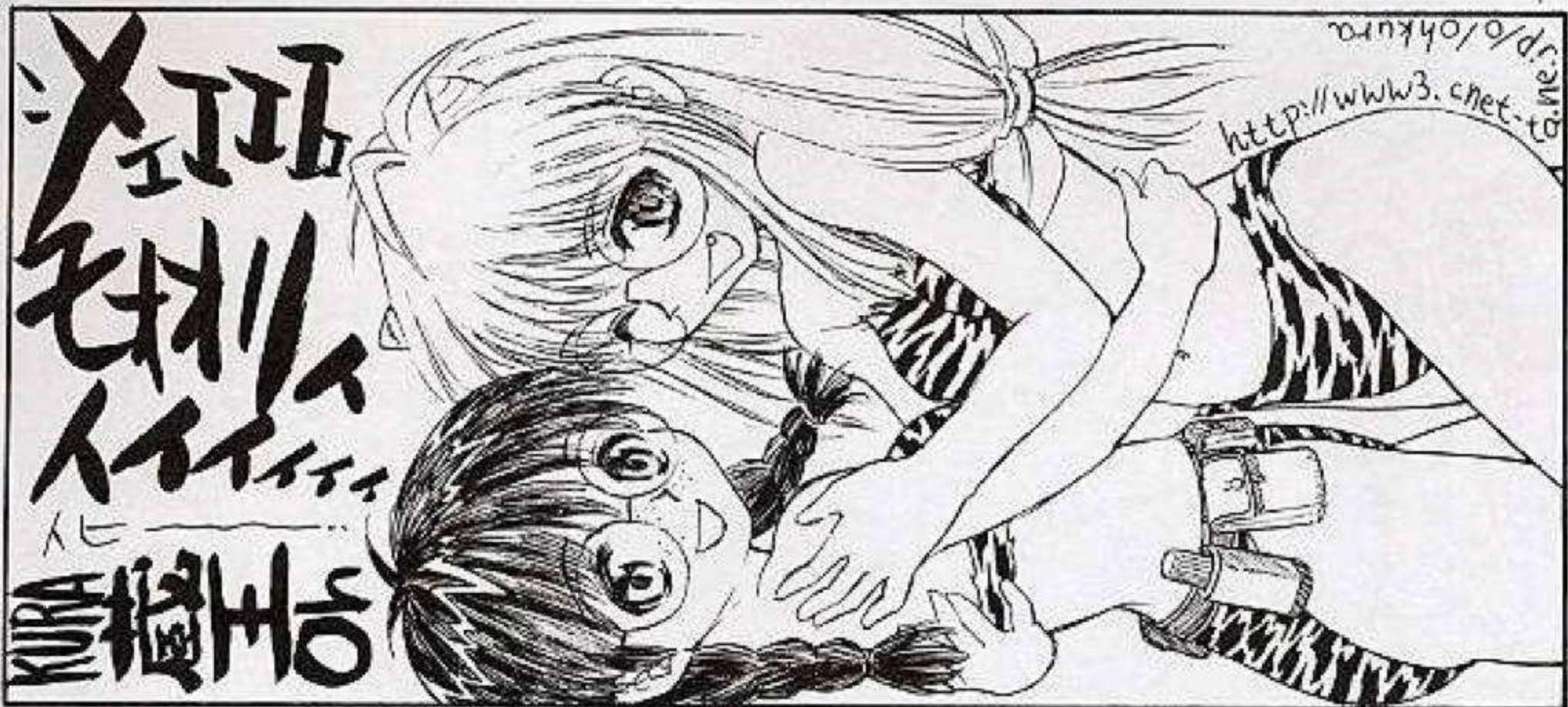
誰でもええわけや
ないねんで……











さあー、今月も「佐亞子の今ントコお気に入り」がはじまるよー。
みんなあつまれー。部族そろってよんでもね♥

第4話

◀佐亞子の今ントコお気に入り▶ 佐亞子の今超！お気に入りは「ミルクティー」
女の子は皆、ミルクティーが好きだ“と思ってる人が”たくさんいますが、佐亞は、ついこの間、
やっと飲めるようになつたんです（笑）…あれは、忘れもしない、小学5年生の時!!
カフェオレだ“と信じて飲んだ”液体が、実はミルクティーだったんです!!（だって、色も
似てるでしょ？）その時、生まれて初めてミルクティーを飲んだのですが、カフェオレだと、
思ってたから、ビックリ仰天!! すぐく変な味で…。それ以来、ずっと飲んだ事が
なかったのですが、先日、一口飲んでみたら、意外とイケル♥ 普段はコーヒー派の
佐亞でしたが、今ではミルクティーのどりに♥ お砂糖を入れても、入れなくてても、
おいしー♪ なれだが、ほんやとする味ですわね☆ ただし，“スペシャルロイヤル
ミルクティー”とか言って、冷たいミルクティーにホイップクリームを浮かべてるのは
イヤであります！ あれって、絶対邪道ですかね？！ ニラ思ってるのは佐亞だけかけよ？！

鉄舟斎の言宣

皆さん、今回もマングース・スタジオ発行の同人誌を購読していただき
まして誠にありがとうございます。おかげさまで通巻4冊目となります
ここまでこれたのも一重に皆さんのおえがあつてこそでございます。
これからも皆さんにご支援いただけるような同人誌づくりを目指してが
んばっていきたいと思います。

唐突ですが、思い起こせば「きよせやっぱりイヤだらー」という1
本の電話から始まりました。ここで質問ですが普通、賃貸契約が決まつ
てからそんなことを言う奴います？　いや、まっ、そのなんだ、いいんで
す。もうそんなことは。それより人の頼みではストレートに嫌みを言う
あれはなんですかね。あらーわかった、あれが礼儀作法に厳しい家族な
んだよね。もう最近毒日ねむいっス。映画はおもしろいし、せんべいは
うまいし、カロリーメイトもおいしいな。……。
わかっています、わかっていますよ。来月こそ解約しにいきます。
だって収入の50%占めてるもんなぁーもう！！。

つづく

由宇でいこう!! 誌名
マングース・スタジオ 発行元
名見耶鉄舟齋 監修：発貴
2000年10月29日 発行日
PICO 製版・印刷
tt-j@aat.mtci.ne.jp 連絡先
無断複写・無断転載を禁止/18歳以下・影響を受けやすい・酒毒がわからない人は閲覧禁止です。厳守事項

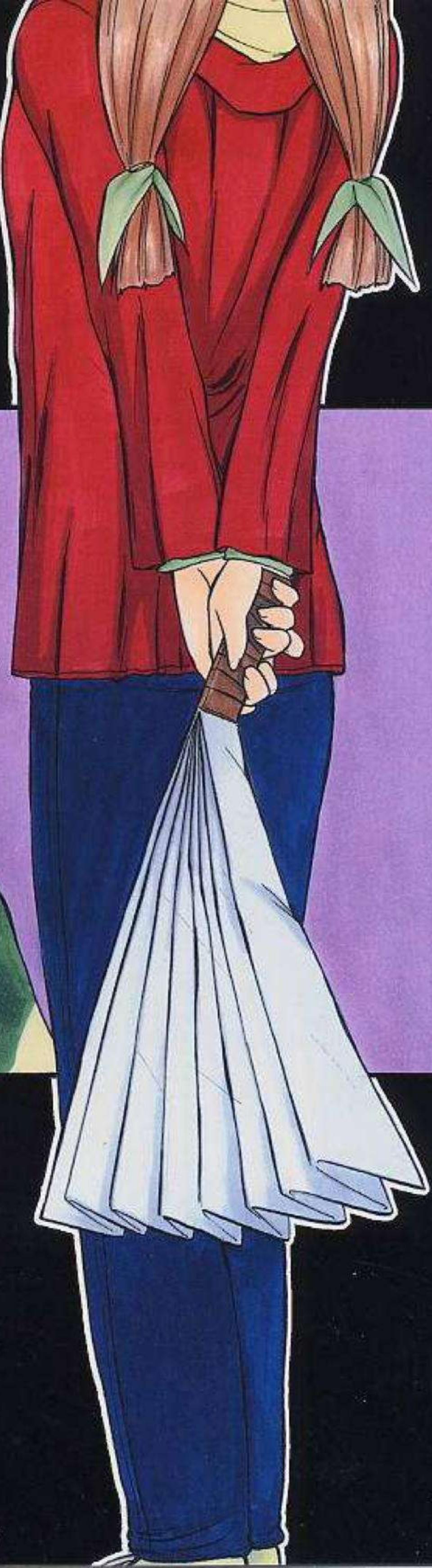
Не успела Золушка принести ящериц, как волшебница превратила их в шестерых слуг, одетых в расшитые золотом ливреи. Они так ловко вскочили на запятки кареты, как будто всю жизнь ничем другим не занимались.

— Ну вот, теперь можешь ехать на бал,— сказала волшебница Золушке.— Довольна ты?

— Конечно! Только как я поеду в этом гадком платье?

Волшебница коснулась Золушки своей палочкой, и старое платье мигом превратилось в наряд из золотой и серебряной парчи, богато расшитой драгоценными камнями. В придачу волшебница подарила ей пару хрустальных туфелек. Свет не видел еще таких красивых туфелек!

Пышно разодетая, Золушка уселась в карету. На прощание волшебница строго-настрого приказала ей вернуться до того, как часы пробьют полночь.



Волшебница задумалась:

— Откуда бы взять кучера?

— Пойду посмотрю, не попала ли в крысоловку крыса,— сказала Золушка.— Из крысы можно сделать кучера.

— Верно! — согласилась волшебница.— Пойди посмотри.

Золушка принесла крысоловку, где сидели три большие крысы. Волшебница выбрала одну, самую крупную и усатую, тронула её своей палочкой, и крыса превратилась в толстого кучера с пышными усами.

Тогда волшебница сказала Золушке:

— В саду, за лейкой, сидят шесть ящериц. Пойди привеси их мне.

for ADULT ONLY

マンガース・スタジオ